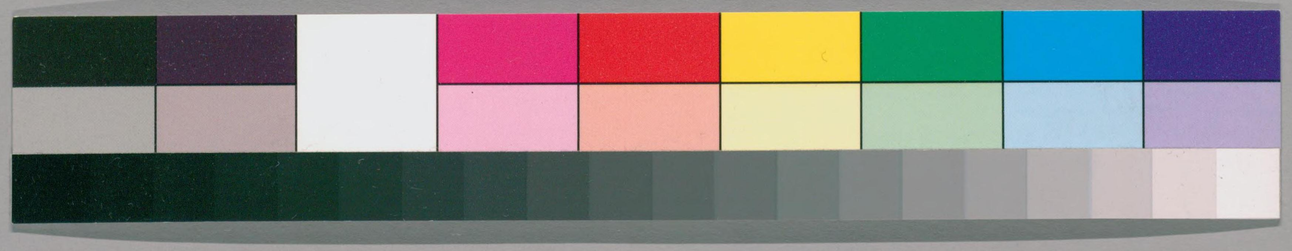
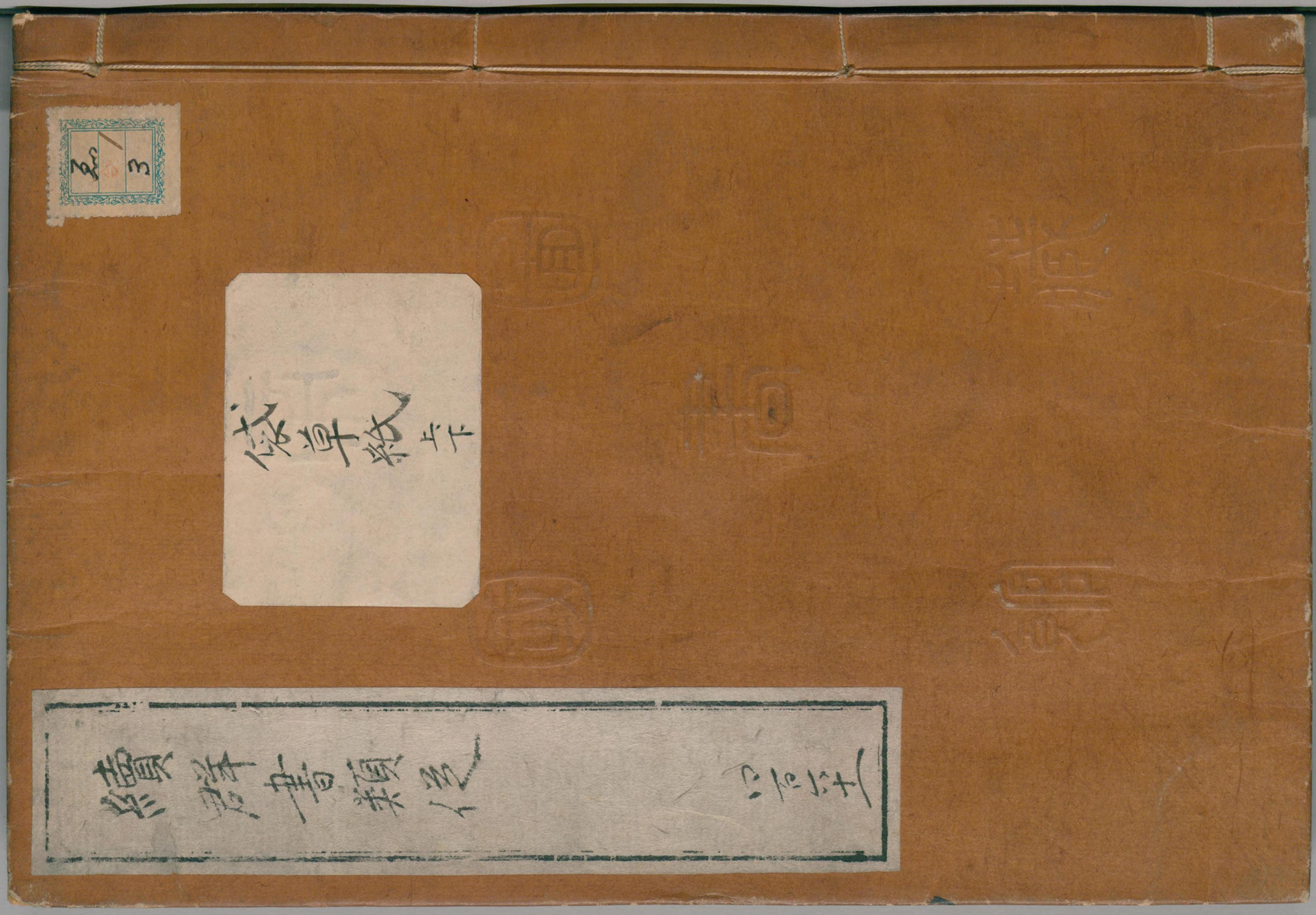




ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』　請求記号　ゑ-3

袋草紙遺編 上

續羣書類從

第 部 廿六 共 二本

東京圖書館 類 ゑ 函 一 架 号 之 冊

ゑ 23

ゑ 三一

續故謠綱

東卅一

紙類從卷四百六十一

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』 請求記号 ゑ-3

ガラス使用

WB6559

嚢字四義籠

一者　其形嚢也

一者　智嚢也

一者　動納嚢隨身也

一者　多辟支故虚言袋之義也

一者　縦法花之妙字中如無量之義籠

和歌舊儒藤原在判

温故堂文庫

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』　請求記号　ゑ-3

ガラス使用

一和歌合次第内裏儀

兼日定和歌題并左右頭念人等　天德時以更衣藤原倫子同有序等爲左右頭　兼暦時藏人頭實政爲左頭右方依無藏人頭以位階上藤俊綱（殿上尋常合用）時以藏人頭用之　亭子院時以女六女七宮等爲左右頭　郁芳門院根合時左右頭女房也　天德四年時藏人頭伊尹朝臣於御前書分也　永兼四年時五位藏人俊長執筆書分左右云云

次左右各定雜叓有定文

定文書樣

定

歌合右方雜叓

一奉幣

一抜叓　其所行叓々

一文臺

一籌判

一燈臺

一饗

一女房檜破子

一裝束

年月日

各有行叓郁芳門院根合特江記說也

次祈禱奉幣

兼暦時八幡賀茂祈願可競馬云云

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』　請求記号 ゑ-3

ガラス使用

郁芳門院根合石清水賀茂稻荷住吉北野云云是右方也

次方人男女有抜叉當日有及問

次御裝束當日早旦

天德儀清涼殿西面　永兼兩度不分明但古記云西對云

天德御裝束儀西宮記云

兼暦清涼殿東面

早朝藏人雜色以下參上供奉御裝束其儀西廂皆懸新御簾納仁壽殿也第五間渡殿間也立御倚子大盤所停子也南方立御几帳立置物御机在御坐南南西間垂簾爲左方女房坐矣北二間爲右方坐御前渡殿南北各敷緣端三枚爲樂所召人坐此等鋪設依仰諸司令重云云如御記暫撤清涼後涼兩度中渡殿北簀云云

永兼四年土御門右府記云

御裝束御殿西對南廂四間卷廂四間御簾下母屋二間東西庇御簾東第三間立殿上御倚子敷毯南廣廂除御坐間東西鋪緣疊各三枚爲左右公卿坐當上達部坐未簀子敷疊一枚爲左方殿上人座御前間廣廂去長押南三四尺許敷圓座二枚講師座簀子敷圓座爲籌判坐同母屋東間并東廂爲中宮御所母屋西間簾中殿下令候給云云同六年根合儀同也見同記

兼暦殿上記云

撤晝御座敷一色綾毯代立侍御倚子當御坐間孫廂左右敷南面疊各一枚爲大臣座同間各敷緣端疊爲自

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』 請求記号 ゑ-3
ガラス使用

余公卿坐云云

郁芳門根合御所六条院江記云

寢殿南廂也垂母屋六間并左右庇御簾爲御所并女房所候中央間二間東者郁芳門院御所也其中立御屏風関白候簾中給其左右各三間女房所候也南庇左右各二間敷高麗端帖三枚中央間二間左右各敷圓坐一枚爲講師坐南簀子敷左右各第二三間敷紫端帖二枚爲右方殿上人坐云云次左右方人參入集會所兼暦時左方弘徽殿右方下侍郁芳門院根合左東殿寢殿右同御湯殿自餘不分明次刻限宸儀出御天徳時申刻永兼四年戊刻同六年根合御殿油後云云兼暦戊刻亭子院巳刻郁芳門院根合及申刻始之云云根合江記云関白候簾中給刻限出自御所御簾西初半出妻候於簾下給上皇又上御簾給高三尺余許云云又天徳歌合時上御簾之由見御記

次有召公卿相分着御前坐或兼日分之永兼根合土記云爰有仰云上達部相分可着者以前有議云子姓有殿上之人々各可候其方云云暫持疑待重仰云依位次可相分者

次左奏有或時無時公奏之天徳并永兼両度奏不見兼暦左奏左大將藤原朝臣後二条殿無右奏亭子院時左中弁親王右上野親王奏之亭子院時左奏付柳枝云云兼暦時經信卿記云次数度櫻枝右奏付柳枝云云

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』　請求記号 ゑ-3

ガラス使用

蒙催之後頭弁實政朝臣經東簀子進參中於殿下云
奏候隨殿下令候氣色依有天許被仰其由頭弁退去
之後殿下令目大將云奏可持參者大將起座經簀子
於東障子後左近少將隆宗取之立御件奏付松枝指
笏候取之入自座未經孫庇當御前間膝行懸膝於長
押捧候松枝主上令取奏又大將持枝退膝行左廻起
去至初所返給松枝復座主上披覽令置倚子左方奏
書樣和歌十五首其題々〻年号之唐紙下繪有懸紙左
少弁季仲書之云云
次右奏
次立左文臺天德時童女四人舁之永業兩度六位舁
之兼曆五位六位等亭子院時五位右童結綺郁芳門
院根合左五位六位右童女二人長元三十講歌合左
右共六位藏人上臈持打敷
次置負剌具舁人如文臺或時無此支内裏歌合負剌
多小舍人也郁芳門根合時依上皇仰無負剌云云
次立右文臺并負判具等但天曆右方先立之
自余左爲先
天德歌合西記云右方令持洲濱二机一哥籌參上自御
湯殿西遶獻童子一人著青色執地敷立御前高欄一
人敷地敷之後舁之立其上次小舍人實正執銀花柳
枝下居砌次小舍人二人舁負挌洲濱實正前次左方
自殿上侍方參上童女一人執地敷〻御前押如右次
童女四人舁洲濱立地敷上次小舍人二人於砌下取傳

如御記北小庭也

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』　請求記号 ゑ-3
ガラス使用

置負揩前云云　永萇四年殿上記云左方參入舁文
臺持參小板敷上右方舁文臺置殿上侍戍刻出御左
方舁文臺持參御前六位舁也　立孫庇東第二間亦舁
負剌同舁之　右方亦立同西第
二間置同簀子敷西方六位舁之　敷所圓座各一枚爲
負剌坐左右以小舍人爲負剌　関白左相府直衣候御簾中講
歌未始之間相府先覧左右文臺負剌具等　同六年根合
同記云左洲濱居御前負剌小洲濱六人一人捧置初
洲濱東邊　右方亦如左云云　兼暦歌合殿上記云右
方直自侍方舁文臺立御前次負剌具次左方云云
郁芳門根合江記云左方立文臺登自東二棟廊前階
經寢殿東　南簀子自南面御座間立之　於燈臺北　先

敷打敷　右方五節儀也其童宿装束也第一童持敷物
自西并南簀子參入登於御前間敷圓座北第二童持
枕几帳一本是爲文臺乃置於錦帖之上云云
次隨召供燈臺　六位役之隨使一兩所立之講師前
短燈各一本根合時最先供両方燈臺云云是依入夜
始歟又天徳時以脂燭照之由見御記左近少將伊渉
右近少將助信等役之云云四条宮春秋歌合時亦以
如此左少將忠俊右少納言伊房居両講師中央云云
次置講師并判者圓坐六位役之
次奏參入音聲　或時無此事
伊勢海右雙調歌竹河以方殿上人等用之由見彼時
記　兼暦時左雙調次歌席田云根合時郁芳門左

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』　請求記号 ゑ-3
ガラス使用

方乘舩歌席田參上云云經信記云兼暦時藏人少納
言基綱朱上達部座後申云欲仕參音聲殿下令候御
氣天許ゟ人招出三位侍從之令吹笙侍從下立御障
子後吹之方人下立砌云云
次召講讀師等　先召講師次召讀師各用圓座亭子
院歌合時左講師爲女房巻御簾五寸許讀之云云野
宮歌合橘正通一人讀兩方歌云云
永長四年歌合土御門右府記云次召講師左經信右
資仲進自簀子敷昇自御坐間著圓座（先是短燈臺各一本立講者圓座北長押御所南座之）次左頭中將右頭弁各自廣廂進居籌
刺并講者後取歌授講者云云次召講師左師資朝臣入
自上達部座未候菅圓座右遍後朝臣同參候（次）左右
籌刺者簀子座左實政々經上達部前候文臺傍講
師後右俊經々同進候次被仰左右籌判童著座（左秋守有賢右波守家隆）次召藏人被仰
可敷判者座之由藏人取菅圓座一枚置御前間右程
下是新儀欤依御氣色皇后宮大夫起座經簀子著圓
坐次頭弁取子日歌令授講師々々讀之云云予今案
以讀師称後居欤籌刺幼雅之故有後居有後居之時
無讀師欤不審也又天德歌合或人記云以講師
次仰判者　此講歌合時或讀師（本讀）以前召判者之由見
記判者多爲公卿別座而中三位不座列之故先召之
欤判者圓座臨期仰之藏人役之

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』　請求記号 ゑ-3
ガラス使用

次臨披講期撰堪能者一兩可進參之由仰之根合時
左通俊卿右匡房卿應召候判者後長押上殿上人候
長押下云云
次講和歌　先左讀師取歌開之授講師々々讀之次
方擧聲詠之次右作法同前一番若持者二番猶出左
歌後云者負方出之若有持時付先番負也亦有物合
之時先合其物讀師取出之講師受取之置長押上判
者定勝劣其後歌合云云左右講師陳是非亥無憚親
合歌　兼曆歌合之時經信卿記云頭弁取子日歌授講
師々々讀之方人依御氣色兩三度詠吟次讀右歌左
大臣三度詠吟関白被仰左右云云有所申者各可申
者右講師并後居起難次第判者被申云左猶勝候者
籌判之籌云云　永兼六年根合土記云左方經家進
居洲濱下取出根良基進取藥王置御前長押上以根
戔展一丈一尺許右資綱進取出根基家受取置御前
如左方根長一丈三尺許也寛治又加此合作亦云四番祝
持五番不因前番勝負左方先可進者是相撲最後手競
馬十番等例也云云同四年歌合時最後番不依先次
左先讀云云見同人記
次判定　天德時小野宮殿卿称申不堪之由請天裁
云自余不然欤
次講畢左右講師籌判等退座
次勝負舞　雖負負多最後番勝者可奏勝方舞欤
根合江記云右方人議云第十番歌若勝者可奏勝方

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』　請求記号 ゑ-3
ガラス使用

舞是相撲時雖多有最後番若勝者奏納藤利之故也
右中弁師頼童時習此舞適在此方可用意云云
天徳時雖右方有遠奏歌曲云云
次勝方拝　兼暦時左方有拝自余無所見之
経信卿兼暦歌合記云殿下宣左方上達部云若可有
拝歌人々被申云拝左可候者公卿并方殿上人列立
庭中三行六位又有五位後　再拝復坐
次盃盤出　天徳歌合時御厨子所供菓子干物重陪膳
次供御酒左大臣起坐献盃云云　見西記亦歌講以前
賜酒饌於方公卿云云永兼并兼暦時此出不見自余
歌合皆有此出女房中或檜破子云云祐子内親王歌
合時盃酌数巡後講和歌云云

次御遊出　召堪能公卿并殿上人等令藏人置御遊
具天徳時地下召人相交由見御記　兼暦時同之
永兼兩度共無召人　根合時依一院御忌月無御遊
出云云　永兼根合時主上令吹御笛此由見土記
次大臣以下賜禄
大臣裹装束一襲大納言白合御衣一重参議白単重
御衣自余足結　三十講歌合時判者中宮権大夫権大納言
芳生掛袴云云　春宮大夫頼宗中宮権大夫権大納言
等被曳馬云云　祐子内親王歌合時右大臣大二条殿
内大臣堀川殿也判者各被曳馬云云前駈者取之上
東門院菊合時人々賜御衣由見假名記自余歌合皆
有禄但式法不分明　三十講歌合時中三位賜禄東

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』　請求記号 ゑ-3
ガラス使用

簀子敷起拜之間超卿相座是情感之余不知手之舞
足之蹈(欤)云云

次有宿願支後日景之三十講時左勝方人八幡十
烈亦參詣住吉社講和歌云云兼暦時八幡賀茂競
馬根合時左賀茂競馬云云自余歌合無
斯見也　兼暦歌合五六月依御忌月三十日遂賀茂
競馬遠斯支難叶之故也仍先八幡奉幣有告文云云

一
歌合日裝束　亭子院并天徳歌合東帯永兼四年(関白殿)直衣云云
見殿上記　兼暦時無斯見定束帯歟直衣布袴云云
直衣下襲或本用依帯云云　三十講并寛治時直衣
或衣冠判者輔親卿直衣布袴(直衣下襲用後支云云)知足院入
道殿仰云経信卿語云件日賀陽院東門より上達部の

前聲あり見之輔親也かひ練重を著目出うるし事
也云云かひ練重ハ紅行よ重ハ張也
四条宮春秋歌合公卿或束帯或直衣殿上人皆束帯
云云　祐子内親王歌合大臣以下大納言以上烏帽
子直衣殿上人不得進従云云献哥者依召候南簀子
云云　主上御服不分明若御直衣歟但亭子院哥合
時檜皮色御衣(兼知也僧正也)僧面色御袴之由見假名記

一
歌合判者講讀師并題者或撰者清書人等但密儀并
次所不載之

二十番左勝
天徳四年歌合　去年殿上侍臣闘詩尓時命婦等相語
判者　左大臣殿　小野宮殿　曰男已闘文章女但合和哥云云
講師　左　左衛門督延光朝臣
講

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』　請求記号 ゑ-3
ガラス使用

右　右近衛中將博雅朝臣

讀師　不見

撰者　左　朝忠卿　右　平兼盛

題者　勅題欤

左歌銀鶴含欵冬一枝以黃金作八重菴以青銀作數行葉各書一首　右歌以色紙書小字詠花樹哥各結付其枝題好鳥付又含持其鳥至于春霞暮春首夏意之詞在人中或載漁舟云云

判者　中納言義懷

講師　左權中將公任朝臣　右左近將監長範

寛和二年歌合　左勝二十番

永兼四年哥合　十一月九日　左右持　十五番

判者　正二位權大納言源師房

講師　左　從四位上左馬頭源朝臣經信

右　從四位上右中弁藤原朝臣實仲

後居　左　藏人頭正四位下右近衛中將兼春宮亮

右京大夫源朝臣資綱

右　藏人頭正四位下左中弁藤原朝臣經家

題、式部太輔國成朝臣

撰者

清書　左哥　兵衛佐師基

右　侍從中納言乳母故行賴女

左造松枝置匣中以洛右索枝其葉書和哥

右銀硯筥納草子十帖繪以題趣書以和哥

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』　請求記号 ゑ-3

ガラス使用

五番左大將右大將
同六年根合右記云去三月晦聞召堪能上達部一兩殿上人等有弓箭者有木(雜)射依其勝負有可令鬪根之仰云云

判者　内大臣堀川殿

講師　左　齊院長官長房朝臣如土記講師左良基
　　右　右近中將隆俊朝臣

題者

撰者

清書　左　散位公經
　　右　兼行

土記云公經近日依處分支付撿非違使聽使者頗不落居支欲云云

左方洲濱立松鶴右立八足机一脚其上置和哥一卷五首書此一卷右立大皷一面其前立胡蝶舞童六人

其翼書和哥云云

十五番左勝
兼暦二年哥合

判者　大納言顯房有難判不知作者

講師　左　左中弁源師資朝臣
　　右　右中弁藤原通俊朝臣

後居　左　頭弁藤原實政朝臣
　　右　但馬守橘俊綱朝臣

題者　實政朝臣

撰者　左　經信卿　右

清書　左　左大弁伊房以金泥書之
　　右　藏人弁伊家

左哥以方磬爲文臺以鏡十六枚爲磬其面以金泥書

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』　請求記号 ゑ-3
ガラス使用

和哥云云右哥卷物三卷各随題目圖其趣書和歌納
銀透筥云云

霞哥付梅花時鳥哥付
延喜十三年亭子院歌合寛平法皇也
判勅判
講師　左　臨期爲判者令尋藤原忠房給之處不參云云仍勅判也
女房云云御簾卷五寸許云云

橘自余哥造鶉舟入簡今持左右無分別左不重
讀師　題者　撰者無所見也
者自然流布云云
故春宮大夫師頼歌合俊頼判之而基俊加難判賀陽
院哥合經信卿判櫻題哥伯毋与匡房合之判者定持
而伯毋大擧緣〻後日訂申殿下經信聞之以消息
且陳送伯毋亦陳之但區々未生之意件番勝負無私
見之如何　奈良花林院哥合基俊判後日作者宗延
法師出陳帖　皇后宮春秋哥合堀川右府判太輔雁

哥依病負畢而有病哥古歌合ゟ多由を称て於以有
執氣　高倉一宮哥合同大臣判資業卿櫻哥定負後
日宇治殿下閑居晩資業參入候氣色殿下令問云誰
人哉荅云資業被仰云何等哉申云哥合事哉申云可訂申之事
亦仰云如何資業竊ゟ彼櫻哥を讀上云是以何斬悪
て負候哉除愁思給候云殿下暫案仰云斬申右然
云云資業違巡て申云是を爲兼候百除鬱思給也有
恍氣退出云云　凡和歌評定叶傍輩之意事極大事
也況面々作者意哉先賢皆如此能々可用意事也
長元哥合時經信卿生年十八也爲參河權守舍兄經
長卿爲藏人件哥等を爲評定以經長四条大納言
長谷ゟ遣之經信所望經長車後參納言公被何料光

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』　請求記号 ゑ-3
ガラス使用

臨哉経(信)云爲兼御評定趣所望て参上也納言有興
之由を示仍件判定詞等を具以聞之云云
長元哥合の日能因衣蒙して窃入て聞之意歌よ
思ひきや人をも神をもかけなれて
やらふ哥を讀りと思ひて勝負聞よ参入也而歌方よ
り重ねてせめて令升悟給ぬと云哥を講ずを聞て竊退出云云非歌之由存ぜ欤
高倉一宮合(陸奥)人左大貳三位江侍従伊勢太輔出羽
弁小弁相摸也右資業兼房家経範永能因等也今一
人を兼長経衡競望之而両人入女房(二人)不足亦一人を
抽入ハ等同者有懇望又共ニ不入ハ女房一人可餘
宇治殿思食煩于茲堀河右府以加賀左衛門荏て吹

流布本代表章
紙巻三ノ六

挙無許容是未至之故欤仍兼長経衡等爲試當坐賜
題云
水邊款冬　兼長哥云
いつかなと君を待山吹のひとへ池の底ふかすもん
経衡哥云
池水のうつろふ山吹を底ふかみ花のみ見ゆる君をこそ待
右府判云持也是入両人て女房不足の所よ入左衛
門を云也云云満座ハ兼長勝と思へ然間兼長服
假ふ成て遂被入経衡云云昔支能有清撰欤
或物云宇治殿下被仰云齊宮女御哥合ハ左右哥忠
見一人讀之云云予見彼家集ニ實也左料右料共讀
之

同又同女御天暦十年哥合号扇(扇)景(景)殿女御哥合左哥ハ兼盛右哥
ハ中務各一人(ヲ)讀之(ス)云云
同三十講(講)哥合時相撲所詠の云
(ママ)
此哥講(講)出之時滿座殿(殿)中動及(ス)郭外(ス)云云
江記云俊(俊)兼(兼)曰(ク)先年(ス)故(ス)土御門右府大納言時哥合棟
仲爲講(講)師而有露被曝(ス)之由歌(哥)歟方難之棟仲當坐(座)秣(稱)古
万葉集讀出(ス)證(證)哥一首云云右府後日被感予曰當坐
讀(讀)宜(ス)歌(哥)之旨雖似棟(棟)對(對)至(ス)虚言者於(ス)無便(ス)哉也云云
郁芳門院根合時江記云右中弁師頼曰尾張守許(ス)考
善未(ス)向(所)取國基(ス)住吉神主(ス)歌未見之(ス)前破却可入考善哥之
由申請入之云云彼時左右相挑之間(ス)可爲嘲(ス)歟匡房
卿云右大弁通俊哥(ス)至予者不被挑(之)前(先)年書狀于今猶
有之其書云和哥之道雖(ス)能宣忠峯不可恐於(ス)貴殿(者)深
所(ス)恐申也者件書狀爲明鏡何可忘(ス)彼書哉俊兼聞之
大(ス)咲(ス)云云件哥合(ス)左方人以中納言中將下今入道殿
爲言口無(ス)心(ス)云云隨(ス)殿下頻令制止給少年之人不知
和哥案内何(ス)爲殿上人之言口乎就中累葉(ス)之相風無(ス)
此例云云已上見江記

以上流布本

在野書類從卷一百八十

一古今歌合難尋古跡可難
延喜十三年(三月十三日)亭子院哥合勅判
二番 桜
左 持(類從本)
(校定難本)さくらちるものとおもふ(類從本松下同)ものから
(ママ)
(ママ)
(ママ)

右

山ゝ峯ゝ峰ゝ峯ゝ峰ゝ峯ゝ峰

ふるさとの春の夜ふけぬめるをあちきなくも（北野類従本ノ行末ニ一本トアリ）
きる人さくらいかにあちきなくも（類従本ノ末ニ類ス）

天徳四年内裏哥合 判者小野宮殿

私家集并古今六帖 三番 春

（拾遺春下 左）
ちるものとしらでや花のおしまるらむ
おもきものとしらでや花のおしまるらむ
今ぞしりぬるうきものの花（玉葉春上 家集 万代春上）

（拾遺春下 右）
ふるさとの春の夜ふけぬめるをいかにかすみのたちかくすらむ
（同じ人とあれど人違ふべし 家集）

左 朝忠（宗方）

春ごとに花のさかりはありなめどあひみむことはいのちなりけり（家集 万代春上）

（拾遺春下 右）
ふるさとの春の夜ふけぬめるをいかにかすみのたちかくすらむ
（同じ頭書ありこの合七首の左右、この三首目と八首目とうらうへすべし）

兼盛

（拾遺春下 左）
花の色はかすみにこめてみえずとも香をだにぬすめ春の山かぜ（家集 万代春上）

（拾遺春下 右）
春ごとに花のさかりはありなめどあひみむことはいのちなりけり

（拾遺春下 右）
春ごとに花のさかりはありなめどあひみむことはいのちなりけり

八番 勝

左 勝

ふるさとは春ぞむかしにかはりける
ふるさとは春ぞむかしにかはりける（拾遺春下 類）

春ごとに花のさかりはありなめど（家集）
あひみむことはいのちなりけり

右

ふるさとは春ぞむかしにかはりける
ふるさとは春ぞむかしにかはりける（拾遺春下 類）

春ごとに花のさかりはありなめど（家集）
あひみむことはいのちなりけり

源順

ひとつ松こえて今山吹さきにけり（荒廃 類従本）
かきこしほどのことぞ思ほゆ（元永本）

春ごとに花のさかりはありなめど（さ類 類従本）
あひみむことはいのちなりけり

左

ふるさとは春ぞむかしにかはりける
ふるさとは春ぞむかしにかはりける（拾遺春下 類）

春ごとに花のさかりはありなめど（家集）
あひみむことはいのちなりけり

右

ふるさとは春ぞむかしにかはりける
ふるさとは春ぞむかしにかはりける（拾遺春下 類）

春ごとに花のさかりはありなめど（家集）
あひみむことはいのちなりけり

八番 勝

朝忠

左

顕明女 家歌合 負 類

春ごとに花のさかりはありなめど（拾遺春下 統千載 類従本 家集）
あひみむことはいのちなりけり

右

我門まで多くの年を経て
（類従本 たゝ）
ふりて春風をいとふこと
（類従 八日上）
なりぬれば（類従 そ）
あるまゝ（類従 あるまゝ）
よめるうた（他出）
きゝけり　右（ろ類）
（歌合部類 う）
なりかくるまで（み類従）
事ゝあり（も類従）
（艶 類従）
細云（雑也）
よろこぶ（八行従）
是為創國信卿家合（右類従）
作者陳云貫之歟
（家集）
まちつゝ（さの集）

やうやう宮雑よ天徳哥合
哥合あり（古今集）
我やどをいとふ春風（古今集）
之又有百葉集（元方三）
春ふかき（八ホ）
中務
（おもふ ろ集）
右
（そうこうこう ニ新類）
（類従本）
（ニ六お従）
（ニ六ろ類）
（又なきこともあれ八行ろうくくそゆゆ）
（類従え）

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』　請求記号 ゑ-3
ガラス使用

十二番　和名

左

道とをく人もかよはぬ奥山に　（類従本）
　有明の月をいつまで待つとか

右歌

十三番　躑躅

左

家集　（類従本）
　峰のそら雲もまがはぬ山のはに　（類従本）
　有明の月をいつまで待つとか

右歌

十四番　躑躅

左

　さまで染めわけ侍らぬ花の色は　（以右歌為一本）

右

元真

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』　請求記号　ゑ-3

ガラス使用

六番　右

本院侍従

中納言

右

侍従位理

掃部助文則

八番　右

勅勘人

義作蔵人

右

応和二年内裏哥合五月四日判者不註若勅判欤

九番

左

文章生兵政

右勝

負命婦

野宮哥合 天禄三年八月十八日 判者順

二番 女御方

左勝 類従歌仁共元

右

夫木廿二秋二有忠朝臣

判者順

郎君

有忠朝臣

左勝

右

兼暦哥合 以此例吉備中山霞を爲難近代哥合ゟ

又少々此難出来但前大相國哥合ゟ立田山霞難之

而判者故將作古今集の龍田山の鶯声の哥をいひ

不爲難之

十番 蘭 類従本 統類同

左勝 類従本 統類同

これや枝をわたるらん 類従本 統類同

右

あるかなきかの名なれん 類従本 統類同

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』　請求記号 ゑ-3

ガラス使用

是より下類従本続類従本哥仙家集本ハ三本と記ス

この三本

守文の　哥仙本続類
八里の名ハ類従
八野の名ハ哥仙本

[illegible]

五番　草香

くさのまろ　類従哥仙本共

[illegible]

右

原　寿

為憲

[illegible]

[illegible]

[illegible]

群書類從卷百六十一
加陽院水閣歌合
三十講哥合長元八年　判者中三位
三番　池水

定持是先例也云云又郁芳門院根合之時判者右方人竊未云一二書歌右勝也然而依無益所持列也云云如此之用意先蹤也

又判者里亭有判定哀判者一人求暇瑾極大事也故尤云判者勿強好之唯難遁所許可否云云而如前金吾之判大略放言也不甘心又於當座難判定其後於里亭閑加取捨之詞常哀也野宮哥合ゝ可然

又判者爲撰者常事欤皇后宮春秋哥合左哥ハ判者大臣撰之云云

又判者爲作者之時至我歌者所加判故實欤但人々心々也基俊云或所哥合相兼判者之時判詞之爲判者之人不詠哥者例也假雖詠哥於自作之番不加判是故實也仍不加判云云雖然殿下哥合時又有勝負若是御定欤

大治三年八月廣田哥合基俊判之而合顯仲卿歌定持者也

顯仲卿爲判者之時以我哥皆爲負中御門中納言哥合

後頼朝臣爲判者之時以我哥定負殿下哥合

將作殿爲判者之時有勝劣右武衛哥合

六条右府爲判者之時有勝負根合

経信卿爲判者之時有勝負永縣根合并四条春秋哥合

堀河右大臣爲判者之時吾哥爲持但一首也三輔親卿爲判者之時以吾哥爲持但一首講哥合

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』　請求記号 ゑ-3
ガラス使用

但六条右府以下八人ゟ代て詠也

故人云和歌判者ハ非荒涼者之所爲一者家重代者若ハ達道者次者高貴有威權人云云予今案雖如此之輩皆難遁誹謗欤弘徽殿女御哥合義忠判之家經并相模等加難判兼暦二年哥合六条右府判之又有難判不知作

判者

講師　左中宮權亮藤原兼房朝臣
右左少弁源經長朝臣

讀師　白河院皇女
有明芳門院根合十番寛治七年左右持

判者　右大臣六条右府

講師　左四位侍從藤原宗綱朝臣
右右近少將源能俊朝臣

讀師　左藤原季仲朝臣
右中弁源師頼朝臣

題者　匡房卿

撰者　左大弁通俊
右大弁匡房

清書　源大納言雅實書左右哥

江記云源大納言雅實兩書方哥左方愁之天徳詩合時道風書兩方詩強不可爲愁支也云云

左以沉作鏡筥以懸枕爲和哥斷紙續色々紙以水精爲籍軸一巻書五首右以枕几帳一本爲文臺銀手哥云云居其帳白浮泉綾其上銀銅薄色紙形漆之書和歌

十番

同院前栽合嘉保二年右勝

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』　請求記号　ゑ-3
ガラス使用

判者　左大臣　堀河源左府

講師　左中弁宗忠朝臣
右右近少將能俊朝臣

讀師　不見

撰者　同

宇治殿女寛子
十番　皇后宮春秋哥合　天喜四年左勝

判者　内大臣　堀河右大臣

講師　左權亮藤師基ヽ
右亮藤師基ヽ

讀師　左頭中將源隆俊
右頭中將顯房

題者

撰者　左内大臣
右民部卿長家

清書　左兼行書之　以眞名

右左兵衛督經任母

土記云前一日左方人向内大臣家判者撰和歌右方

向民部卿家長家撰定民部卿以自作多入方人含咲者衆云云亦云左方和歌書之人相違忽議定云云日未定故入道中納言皇行成卿女而觸穢云云仍語菅典侍故參議輔正女称所労不書云云仍有殿下御氣色以兼行以眞名令書之云云左銀舟盛和歌葉子十帖畫工圖歌意右鑄金銀鏡臺以和哥二卷爲鏡枕各繪哥念以金爲表紙

十五番　同宮扇合　寛治三年右勝

判者　民部卿源經信

講師　左侍從宗信　右弁基綱

讀師

撰者

類從本巻百廿一ハ讀師左頭房右隆俊ヒトヘテ左右相ヨセシ

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』　請求記号　ゑ-3
ガラス使用

村上皇女 規子
十番 野宮哥合 天禄三年九月二十八日 左勝負八番

判者 前和泉守源順有判哥

講師 加賀掾橘正通讀兩方哥

後朱雀皇女
祐子内親王哥合 永兼五年六月五日

判者 内大臣堀河殿

講師 家經朝臣一人讀兩方哥等或本て、

讀師

以女房爲左以男爲右各相番合之和哥又進各草其
間牙(おて)弛風流云云

後朱雀皇女
正子内親王造紙合 三番

判者 不見之

講師 左四位少將
右兵衛佐

左銀透笘蓋入古今繪七帖
笘納繪造紙六帖新哥繪銀
重明親王齊宮(御九)
薗景殿女御哥合 十二番左勝

判者

講師 左延光朝臣 右保寛朝臣

開院大政大臣女
十番 弘徽殿女御哥合 長久二年右勝

判者 大和守藤義忠朝臣有家經相模等難判

講師

時平公女
京極御息所哥合 延喜二十一年三月左大將殿欲
二十二番左右放欲

判者 大和守藤忠房

春日詣以忠房所献之哥返被合云云

法成寺
御堂歌合 長保五年七番右勝欲常非哥合儀

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』　請求記号 ゑ-3
ガラス使用

判者　左衛門督公任
講師
三条大政大臣前栽合
無判者
講師　左紀時文　右平兼盛
宇治殿十番　三十講哥合長元八年五月十六日左勝
判者　祭主二位輔親
講師　左左少弁経長　右右少弁資通
讀師　左右近少将行経ヽ右中宮亮兼房ヽヽ
左扇十枚書和哥納銀透皆右作銀瞿麥哉垣内銀蝶
各書和哥十首云云
京極大政女七番　高陽院哥合　左勝

判者　帥大納言経信
講師　左右大弁基綱　右右中弁宗忠

撰者故實　雖非透逸可然云公達并重代者歌必可
女爲左男爲右相番合也
入之又雖重代後生未詠暗哥ハ可有議之由匡房卿
所示也但不秀逸之時哀也於秀哥者不可依人寛治
根合右撰者匡房卿也件記云大理俊實歌中五月雨
哥頗宜唯水押樽水益等若爲病欤仍不入之尸部信經
邊哥須一首必入也然而於不快也仍不入之故伯毋
哥一首必可入之是頼基能宣輔親伊勢太輔伯毋安
藝君六代相傳之哥人兼候新院(鄜芳門院也)爭無用意哉然而無
宜歌仍祝哥可収拾之由度々示之頼綱朝臣好此道

此条校本巻一之壹ト大異アリテ校合シカネ

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』　請求記号　ゑ-3
ガラス使用

経年之者也其聲能俊朝臣哥須入一首而無宜哥又
讀左方哥之由有風聞仍不入之柳女房哥中淺沼々人
云大、遼也仍除之件沼在陸奥京都所爲一月余路也不
可逢今日叓所引之菖蒲定黄楊欤云又云大貳女
房哥時鳥歌入之爲譜代哥仙之故也紫式部故大貳
三位并件女房也亦云左方不得等一以孝善書衛門
歌立一番以成元盧橘(たんきつ)歌立二番若非佳境者如然
輩歌不可必入之云云　長元哥合時四条大納言入
道居長谷左方人々行向令撰哥能因時鳥哥云
後拾遺云
ほととぎすなきつる方をながむれば只有明の月ぞ殘れる
入道云哥合ゟ不似云云仍不入之予案之夜居ゟ
夜を尚不快之故欤又月哥云

後拾遺云
有明のつれなくみえし別より暁ばかり憂きものはなし
此哥可入云云而聞能因歌之後云更字別樣也不可
入云云哥叓古今依人欤於秀哥者少々雖有瑕瑾可
撰入欤先蹤多存　天徳哥合順哥云
春拾
こほりとぢ石間をくゞる水の音ぞ春立つしるしなりける
後拾遺云
不留ヌ不解ヌ如近代之説い病也但近代義難指南
欤　三十講哥合ゟ堀川右大臣哥ゟ
後拾遺云
あすもこむ今日の暮をいかにせん今日の暮ゟ人の待ちけん
及礼々々又病也亭子院哥合ゟらんらんを定病是
同叓也但大宮左府語云此哥有病叓作者并方人不
覚悟講時判者又感歎云哥者本末者也云云此時作
者大臣有病叓を始覚悟〳〵責躰給之處遂無沙汰

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』 請求記号 ゑ-3
ガラス使用

勝旱後日相改之曰筆集まハ令のおもむきを被書
事外寄也云云　皇后宮春秋哥合　太輔哥云
後拾遺
さ寄つく籠の子をも呼ぶこ鳥かな
是ハ無左右病也而作者假雖誤撰者若ハ多方人等
不覚悟哉唯不堪優美取出之又入之欤彼哥合假名
記ハ存之由見件記者太輔欤長家卿云ヒ〻ハ凡や
子を氣かゝるとも可讀云云區々未生猶不甘心事也
重服人歌合作者以無憚哉欤一条院御時弘徽殿女
御哥合相摸爲重服者讀之見相摸之難判也判者骨
法
雖存當仁之由當座仰者一重者称不堪可固辞欤
天徳哥合判詞云左右哥讀合畢勅小臣曰可定奏勝

類從本天徳三ノ合校

劣者遥巡奏云小臣雖終備三十一字弁勝劣之義伏
詰天裁勅云不定勝劣已失今日興結後代欝欤速猶
可定申者遇天氣之不許表空慮之左秘而已云云
又三番詞云右講師博雅朝臣誤讀柳歌左方云須讀
申鶯歌而誤讀申柳於今者不可讀申欤者以左哥論
申旨奏聞仰云可被定申者小臣奏云左方之所申非
無謂如是支只隨時之議但依人之誤何無其歌仍令
讀申于時博雅朝臣頗愛色速不讀之雖讀揚其音旅
被由左方人咲云云
廿番　左　忠見
右勝

德歌合時一題依違兩歌弃置乃是勝負未決之前弁論秀興之故也而今評定之後奈何論難不致前詞何有後求哉仍右方献瞿麥歌又至于講照射之比右哥有證之詞左方云以照射称證古今之什所未聞也彼此爭左方遂勝云云

永萬四年哥合判者土御門右府記云次左頭中將右頭弁各自唐廂進居籌判寄講者後取歌授講者此間主上直勅下宣曰可申哥善悪者支起卒尒既進止旨然之間聲首称唯云云

同六年殿上根合同人記云二番左先進右亦進右方根少許長欤而相論未有一定之間按察大納言押左詞云被處持可定者愛内府判者大咲曰勝負不定之

類聚従奉賀陽院水閤歌合トアリ

両哥奉置之由不見哥合如何

長元八年三十講哥合記云左右每講和哥判者輔親先以相定弟四番題菖蒲而左方先献瞿麥歌欤右方出菖蒲歌依有乖違改献同題哥各判定之後右方題之次第已以超越待御定之後可献次歌者殿下仰云天

時詰持是已稱頁也右方殊無陳詞爲頁畢云云又云
一番菖蒲左方先讀方人擧聲詠之次右讀一兩詠之
後内府堀川右大臣被申云今夜根支爲先勝頁在彼
主于和歌必不可被定勝頁欤有猶可被定申之仰仍
被定持二番時鳥哥也右方讀云右勝五番哥畢後内
府被申未列之由云云
皇后宮春秋哥合土記云二番右七夕左春日祭以春
日祭不論善悪爲持云云判者堀河右府
郁芳門院根合時六条右府爲判者一番左右哥講之
後左右方未申左右之間判者被申云可爲持依爲一
番也二番哥讀了後日左右可申各遐置其後左右相
互致難後評定之或時判者難之又陳之常支也兼暦

哥合時ハ一番左右哥講畢後関白殿仰曰共有難支
卅申此後方人難陳之
永兼四年哥合時一番左右哥讀畢後内大臣殿大二条殿ヘ
曰春日と講哥ハ爭可頁哉云云于時殿下宇治殿有
甘心氣仍無左右爲左勝哥曰

此哥件哥合記不見不審也

後拾遺賀歌同作

春日山岑根の松ハ君ぞ千年のまつ代をへん

此後無止事神明を奉懸哥欤
ヒは爲持旦是勝劣依有恐欤
又寄祝ふる哥をハ不頁云云難如此存誠ヨ秀逸之
時定勝頁常支也

三十講哥合

一番　月　左勝

長家卿

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』　請求記号 ゑ-3
ガラス使用

後拾遺
春の夜を深くも月の影かな庭白妙の雪とみるまで

金葉 女讀人不知
右
やどちかき月の光もまちいでて春とも見えぬ雪の夕暮

右一番左
又野宮哥合寄祝哥被定頭如此事随時て可斟酌欤
一番左哥ハ可優之由故人所申也然候哉前大相國
参議之時哥合ハ故將作判也其詞云右勝と可申と
も左一番ハ憚思給て持由云云古今哥合ハ一番右
勝例多不見者也但弘徽殿女御哥合義忠判之
一番 寄
左
相摸

続千春上
春のくる事をかぎりの雪共ハ谷の氷をかさぬるにぞ有ける
右 猶
待従乳母
春ちかき梅の匂ひを先ぬらし谷の氷ハ解そめにけり
小野宮右大臣哥合
一番 春花色
左
少將君
霞をもさそひ行へき花なれハ雪ゆきまぬる谷ハ有けり
右 猶
左別
行のゝ雪ハ消ぬるおりにこそ花のたよりも見えまほしけれ
分殿下哥合

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』　請求記号 ゑ-3
ガラス使用

一番　後宿居
　左　　後頼
かるうりそりてうまつるの
　右　　源定信
武蔵野を後の山よりまつる
野宮哥合
九番　刈萱
　左　　小栄人（擬案）
　右
ゆく秋の風よりそうかるうやの
此うるかやの分け忠延
　右　　菅原忠延
うつくしつのまきかるうやの
まそでありそ春の山ふさたるものをなんそそ
らうそうそうそうそうそうそうそうそうそ
うそうそ
続類従本四巻校
顕昭考兼暦後番哥合
一番　子日
　左　　皇后宮美作
春霞ものとへ（見）
春霞ものとへ（見）
　右
続千賀
小松続類
もゝ続類
勅判云左可仰也
此等之外殊不見及者也義忠判い有由緒右を多令
勝之由被持人申云云若件故忘法根致偏頗欲将優

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』　請求記号 ゑ-3
ガラス使用

左哥之儀近代之會釈欤次哥合等ハ依爲容儀又不
存故實欤就中至俊頼ハ俊爲判者難優吾哥欤又
御製者不負云云古今之間有御製之哥合延喜十三
年亭子院哥合有御製二首無左右爲勝件哥合勅判
也仰云御製爭可負哉云云 皇后宮春秋哥合或記
云左十番祝有御製云云滿座頌耳所陳是非已爲左
勝左方人不同右哥而起坐頗有称雄之氣色是御気
毋三位入左方俄申下御製欤云云左本紙破取哥裡
押葉紙端主上密々渡御簾中云云右哥雖詠住吉松
已負平爲御製之池のうらくもかすめる

此一番皇后宮春秋歌合トマヘアレト無

五番 賢憲

左 俤

後拾遺

ここもかも我も旅ねをかすみこめ

右

霞のおもかくしの袖をしぬいたなをつゝみやるへき

八番 出射

左 俤

定頼

ふる郷と思ふ

ふる郷と思ふ

ふる郷と思ふ

類従本巻百八十校

後拾遺賀

弘徽殿女御哥合長久二年二月判者義忠朝臣

七番　蛙　良暹

左　猫　帝徳

後拾遺春下

うちわたすすゝ蛙の仮寝こそ

右

かつ〻を道とも思ふ蛙こそ

やまとうた事のおろかやはある

よもあらじ（さはと）かろくのみ

ゐ（え）なきを（こと）仮寝（そ）とは

仮寝（元）といへそをしへそ

後拾遺賀

君ちよをあまの人の玉ぼこの

海と山とをうごかんかぎり

まもるとてあまのいはやにこもりにし

ほこりの神ぞ山いでましける

詞花賀

万代をうごかぬ国のしるしとて

君が御幸（ミユキ）は山ぞなりける

右依

九番　祝　良暹

左　仮用

詞花賀

万代をうごかぬ国のしるしとて

君が御幸（ミユキ）は山ぞなりける

右依

万十五

山ぶきの花のさかりに逢坂の

関のそらしひおふる春雨

日十五

久方の月のかつらのえだならば

いくあまのいろもそめてまし

又方

日六集

ちはやぶる神のいがきの玉ぐしの

葉（ハ）にかけてこそ祈（イノ）りつるかな

日六集

ちはやぶる神のいがきの玉ぐしの

葉（ハ）にかけてこそ祈（イノ）りつるかな

右依

十番　祝　良暹

左　仮用

詞花賀

万代をうごかぬ国のしるしとて

君が御幸（ミユキ）は山ぞなりける

右依

万十五

山ぶきの花のさかりに逢坂の

関のそらしひおふる春雨

日十五

久方の月のかつらのえだならば

いくあまのいろもそめてまし

又方

日六集

ちはやぶる神のいがきの玉ぐしの

葉（ハ）にかけてこそ祈（イノ）りつるかな

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』　請求記号 ゑ-3

ガラス使用

七番　暁夏旬露

左

あそこの雷よ旬くるまもの内よそのそ

右勝

なそこいかこと言ふさく笠ともと雷を旬くるを

たまものうちにてそこをさくめそ

もうそれそこをひきそこの花のめそこうそ

ほそふ仁いそまそ何のそこぬく右

ひうもまれそまもそこいふうのうち

八番　水上夜雲

左

十番　皇后宮春秋哥合判者堀河年四月二十日辛巳
一番　陰陽寮
左　勝
　眷属ひろめいはふ神の代よりかくとまもれる
右　続後撰釈中
　くもりなき月の秋ある夜半の空
　八月十五夜月
二番　内蔵寮
左　勝
　眷属ひろめいはふ神の代よりかくとまもれる
右　続後撰釈中
　くもりなき月の秋ある夜半の空
　八月十五夜月
三番　掃部寮
左　勝
　眷属ひろめいはふ神の代よりかくとまもれる
右　持ちたる大刀金
　くもりなき月の秋ある夜半の空
　八月十五夜月

永萬四年内裏哥合判者土御門殿
八番　池水
左　勝
　君ならで誰にか見せん咲く花も紅葉も宿も変わらざりけり
右
　新古今賀　池水のよろづ代までもある池に陰いんしてもる秋の月かな
伊勢左輔
　待従乳母
　君ならで誰にか見せん咲く花も紅葉も宿も変わらざりけり

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』　請求記号 ゑ-3
ガラス使用

ひさかたの雨も降ら[ず]

[こ]のころもかくこそあるめ[此]

[元]年傳聞之馬迎也と云難云

[元]

[元]

[元]

いつのまにかくぬかれん和泉ほうをそうる有
右
つゝ庵とみまかも小菊をこゝろ
左命令のごとくへ
記番 麻
左
庵のうを得てあれ庵よりこのそ
右 府
夕されば雲のいづくやさむらん庵の
左右旬のごとくにへやいつ
庵のあるじ俗名

兼暦二年内裏哥合　判者六条右府
一番　子日
左　持　頭辨宣政朝臣
子日するいもせの人の引つるそ
右

玉の世よ引くらむとおもふ
左

万代を君にひかれて
ちとせをまつのねとそおひそ
物をこゝろ人こそまことあらめ天
下の人のなをよそ
へをいふまあるまじ
かなまつそとをかなのまゝ

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』　請求記号 ゑ-3
ガラス使用

二番 新
右 初

経信記云私案取積不可然

六番　菖蒲

左勝

大宮亮通良
道時朝臣

右

大江匡房

ふるき言葉いつまでもそのむかしやあやめ草
ものゆかしきあやめ草ひきかへてやあやめ草
やどもそこにふかきかなあやめ草
らんもあやめもしらぬ恋ぞとよ

八番　九月尽

左勝

道時朝臣

九月尽のうれしきは今日のみやこの菊の花
ちぎりおきてし秋なれば

為家

右

さみだれのひまもるまでふる雨の袖のしづくや
たまぬきとをすこころなるらん

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』　請求記号 ゑ-3
ガラス使用

ゑ
2
3

経家卿記云又啓之（左下）絶畑本便事欤云
十番 月
左 （左中行）侍従師賢（朝臣）
水（こ）そ（は）
右 （東宮亮）
（左下）
（左中行）
（朝臣）
経信記云左方云景不見江月何浮景乎此難左方雖
存思作者取執仍撰入也諸人之所難不知所避者也云

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』 請求記号 ゑ-3
ガラス使用

續羣書類從

袋草紙遺編

下

温故書籍館

第 部 廿六 共 二本

東京圖書館
類 屬 函 架 号 冊

ゑ 23 三一

東廿一

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』 請求記号 ゑ-3　　ガラス使用

温故堂文庫

No.6559

類從本百八十二の巻校

十一番 左 持

千載秋下

夕されはをの荻原吹風も 庵のほとり

左中弁 正家朝臣

右近中将 公實朝臣

右

山の庵よりも庵いと哀なりけり 庵のほとり

そんをみきゝ地をせあ庵のんおお

山の庵上おもつるもきんち

持

經信記云右人難云未字不快私案是右哥定詞也

十二番 紅葉

左 勝

師賢朝臣

箱迫舎藏書

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』　請求記号 ゑ-3

ガラス使用

右

千載秋下
祐田山[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

此記不得心此哥歟
經信記云此哥本入權弁伯耆守哥不快事也者以書
改不快難不知所避件哥ハ
金葉集秋 作所但和ル
[illegible]

十三番 雪

右 持

[illegible]

實政朝臣

右

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

続類従本校

兼暦後番哥合　勅判

寄祝心歌然而可負

十番　月

左

月みのいくよまいるとも尽せぬ山のさと

右　勝

金葉故春宮大夫云々

くもゐまで霞をそへて入る月を惜まぬ山のさと

（左歌ハ心ゆくまでとて）

右人丸ハ（ものの）ふるまでとて

（左歌ハ心ゆくまでとて）

月をみていくよまいるとも尽せぬ山のさとを

十番　麻

左　持

一宮紀伊君

秋風もまだ吹ならぬ（こ）ゑだ（に）ゆふ

右

匡房

（左歌ハ心ゆくまでとて）

右山ハこいなきものの（に）ゆふをかけてこゑ

（左歌ハ心ゆくまでとて）

堀河院中宮

四条宮哥合　永保三年三月二十日　判者通宗卿

五番　友

左

藤仲實

白雲ハたちもさりやらぬ春の山

右　持

源有賢　去嘉祥歳

日もそれて白雲ハたつ春の山

白雲とともにあるまで

やまいよまさるをもしらて

かくとしらて

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』　請求記号 ゑ-3

ガラス使用

六番　左
　左　勝　仲實
　　（三番左一首持定歟）
なかるゝつゆをたまとぬくものはたゝ
　右
我袂やまつもみぢのそめぬらんたゝ
まくもの〳〵つゆかゝるらし　藤時房
　右
賀陽院七番哥合　寛治八年八月十九日
一番　擬
　左　猶
大夏中納言君
千載春上中納言女王
山ふかみ白雲のまがきの春風をはらはぬ
　右
判者細信卿
中納言通俊卿

類從本百八十二ノ二十ウ八ト哥ノ次ニ判ノ詞ヲ脱シ一ノ二十ウ八哥合部類ヲ以テ校ス

続千春上
春風いかゝもちゐる山ざくら
判者令下云春風いかゝもちゐるといへる
ほめたるやうにきこゆれど春風
二番　擬
　左　杉
四条宮寛子
詞花春　寛治五年
あかつきのこゑをたれきく白雲の
　右
江中納言匡房卿
白雲をうちみしよりぞ春の
顕昭考云同大夏
この字五
ゝ字五
ゝ
おもひたつ
おもひたつ
おもひたつ

女房陳状云、仰、所詮、
[illegible]
為定家卿領家無
[illegible]
右、[illegible]
[illegible]
[illegible]

（行う）あくる（未は）ことをいふ（元）

三番　新古　周防内侍

左　持

新古左
聞をくるまもまちつる秋山の新古同
あのまそよ（元）
あくるまもまちつる山のほとゝぎす　一ものそ（元）

右　続後拾左　顕綱朝臣

続後拾
（この三行、同じやうのみゝ）
共よ（元）仕日するよ（元）侍を左いはをく（元）
（ら）ふ（元）　大（ら）ふ（元）　まてまつ秋いお（さま）く（元）
（元）
（元）

不（元）今霍（元）と在細（元）名（元）今（元）今宵（元）或（元）或（元）おく

一番　月

左　勝　中納言君

くもりなき（元）（もの）（う）（まて）
くもりなきよ（元）てる月のいつをこよひ（元）ぬくら（元）

右

月（う）（元）をこそ（元）（と）（と）（元）（元）秋のよをあ（元）
（右）
書（は）と日（元）ふ若同年（ま）（こ）（元）
日（元）（ふ）（ゐ）（と）（元）陰（り）（も）（し）（元）を何（元）
（行）（と）（と）（と）（と）（と）（元）
前遍（と）（と）（と）（と）（と）（と）（と）（元）
（元）
山（元）（花）（元）の村（元）寺（元）
（元）
（元）（元）（元）（元）（元）（元）
（元）（元）（元）（元）（元）（元）
（元）（元）（元）（元）（元）

右勝

秋の夜いとゝふかくなりぬるまゝに

右

こゝろ山もとの空の物ことなる秋の月

右山のかなたやいかゞ雪ふりて

こゝろもとなく頃

二番　雪

右

新勅撰　冬　鳥羽院皇女

かゝる時のあはれをしるしるも

右勝

新古今　冬　寂蓮法師

こゝろ空いとゞ物さび埋もれて

古今　冬　読人しらず

雪のふる鳥

右

一番　祝

右勝

君が代のいはひの神のこゝろをも

右

きみが代のいはひの神のこゝろをも

金葉三奏　中納言通俊

右勝

古今集止

古今集止

二番　祝

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』　請求記号　ゑ-3

ガラス使用

右

類従今二百二十六皮

是ヨリ下二番三番四番六番九番トモ類従本ト番ヲ異ニセリ

郁芳門院根合寛治七年

二番　昌蒲

右

金葉ニ多原ナド書

あやめ草引きたのめつる程のいとどの深ねおひりん

入道帥上

右

二位宰相中将経良

藤原善経行

判者六条右府

判ハ本ト類従トイフニ作ヘリ

方人云此あやめをいかなる草とよめるにや別而あやめをいふ草にもあらずまた菖蒲をあやめといふ事もなし古今以後歌にも菖蒲をよめるにあやめといふ事なし右負いたるにやまぬまふよもぎ根をそひきみるにそこもとなしとよめるもよもぎ根をそひきみるにそこもとなしとよめるもあやめをいふにあらず

江記云右方人云浅麻沼間在陸奥自京一月路也不可逢今日叓所引之昌蒲黄揖欤云云永萇四年殿上根合遲哥無草字而被撰入況右大弁通俊已所撰之後拾遺入之今所難先後不覚云云

三番　郭公

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』　請求記号　ゑ-3

ガラス使用

類従本下判詞大異ニ下二ヶ所共同断

右　石兵衛督駿後

江記云右方人云於御前専不詠夜短詞依盛於世之一首歟詞三所ヲ云々左以下云々於九詠三所乎云云

旧蓄　暗鳥

左　勝

大貳

右

左大弁　匡房

夕つくひいとゝ中空の山のそらたにくもるあまてらすかことはあるとも弁今もよいれをそうまくらん

六番　左勝

左　杉

さみだれのひまもるれい神

右

二位宰相中将　孝善

つねよりも時雨の雨の五月雨は神もあやまちをいてるものとや

出もあるへくものみや

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』　請求記号　ゑ-3

ガラス使用

江記云右方云納言頗不優又有辛由之義可
謂禁儀又云是後撰之哥也不可
為難云云
九番　左
　　右
伊豫守　題不
続後撰三二位入道
さゝなみや志賀の都をこゆるたのみもなし
小別当
新後拾三二
思ひきやさゝなみ志賀の都をもふたゝひ見んとは
右
左人云右方云々
猶勝事也
人々云右方云々
の雪古今の時み給ふ
第歴年今時右方云々

判者大いまうちきみのかんの時も判をとゝめ
云かのごとくこれをのぞかるゝをもつて
ものこゝろをしるべきものなり
仰ふところなり
せめてもの右方勝
國信卿哥合康和二年四月二十八日　衆議判
十四番　基俊
左勝
新十三ウ
金春ウ上
和ゝゝゝ

類從本百八十八
校了五六條宣相
家有今とありて
永久四年六月四
也四相も

實行郷哥合永久四年二月四日

判者修理大夫　讀師家信
道經　講師仲俊
賴實

一番　子日

左　勝　陳　修理大夫

春日山おろしの小松をもろ人のをらふしけるかな

左勝云々

左歌春日山おろしの小松をもろ人のをらふしけるかな
いへる事なくてもろ人のをらふしけるといへるまことなけれ
ばなるべし右歌神よまことなくてもろ人のをらふしけるか
ら勝とせんにいかゞ

修理大夫顯輔

二番　雨

左

金吾春少将云教母

降ぬとやかすみの衣ほさるらん

右　勝

左歌春霞たなびきぬれば衣ほすてふ事ありがたし右歌
春雨のふりぬれば衣ほさるらんといへる事ありがたき
にもあらず左歌勝とせんにいかゞ

宰相上

三番　櫻

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』　請求記号　ゑ-3
ガラス使用

右 村

[illegible]

右

[illegible]

七番 [illegible]

右

[illegible]

二右 係

修理 [illegible]

以下判の詞類従本と一致

[illegible]

八番 月

右 勝

[illegible]

右

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』　請求記号 ゑ-3

ガラス使用

十番　雪

右脇　仲實

十二番　祝

右　為忠

同家哥合元永元年六月二十九日

一番　百日

右　顯輔朝臣

右　俊頼朝臣

右

春の夜の月影ながら更行くままに袖の上も冷まじく

右 勝 源仲正

続拾遺俳諧太夫 別当 ふるし 源

ながらへて今宵の月を見る事も秋の夜ごとの形見なるべし

右 大進

二番 左

春の夜の月影ながら更行くままに袖の上も冷まじく

右 持 実能

春の夜の夢の下路かよふらん雲井の月の幾重行くらん

右 長実

三番 左

続古今 続千載 俳諧 名こそあれ

名こそあれ秋のまさきの葛原吹風の音を聞くにも

右 実能

春夜の夢の通ひ路吹風のそよ秋のみにとどめおきけん

右 勅敦隆

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』　請求記号 ゑ-3
ガラス使用

十三番　富泉亭

右

修理亮

十四番　富泉亭

右

林賢

十五番　富泉亭

右

修理亮

十六番　富泉亭

右

林賢

十七番　富泉亭

右

修理亮

十八番　富泉亭

右

林賢

十九番　富泉亭

右

修理亮

廿番　富泉亭

右

林賢

廿一番　富泉亭

右

修理亮

廿二番　富泉亭

右

林賢

廿三番　富泉亭

右

修理亮

廿四番　富泉亭

右

林賢

廿五番　富泉亭

右

修理亮

廿六番　富泉亭

右

林賢

廿七番　富泉亭

右

修理亮

廿八番　富泉亭

右

林賢

廿九番　富泉亭

右

修理亮

卅番　富泉亭

右

林賢

卅一番　富泉亭

右

修理亮

卅二番　富泉亭

右

林賢

卅三番　富泉亭

右

修理亮

卅四番　富泉亭

右

林賢

卅五番　富泉亭

右

修理亮

卅六番　富泉亭

右

林賢

卅七番　富泉亭

右

修理亮

卅八番　富泉亭

右

林賢

卅九番　富泉亭

右

修理亮

四十番　富泉亭

右

林賢

四十一番　富泉亭

右

修理亮

四十二番　富泉亭

右

林賢

四十三番　富泉亭

右

修理亮

四十四番　富泉亭

右

林賢

四十五番　富泉亭

右

修理亮

四十六番　富泉亭

右

林賢

四十七番　富泉亭

右

修理亮

四十八番　富泉亭

右

林賢

四十九番　富泉亭

右

修理亮

五十番　富泉亭

右

林賢

五十一番　富泉亭

右

修理亮

五十二番　富泉亭

右

林賢

五十三番　富泉亭

右

修理亮

五十四番　富泉亭

右

林賢

五十五番　富泉亭

右

修理亮

五十六番　富泉亭

右

林賢

五十七番　富泉亭

右

修理亮

五十八番　富泉亭

右

林賢

五十九番　富泉亭

右

修理亮

六十番　富泉亭

右

林賢

六十一番　富泉亭

右

修理亮

六十二番　富泉亭

右

林賢

六十三番　富泉亭

右

修理亮

六十四番　富泉亭

右

林賢

六十五番　富泉亭

右

修理亮

六十六番　富泉亭

右

林賢

六十七番　富泉亭

右

修理亮

六十八番　富泉亭

右

林賢

六十九番　富泉亭

右

修理亮

七十番　富泉亭

右

林賢

七十一番　富泉亭

右

修理亮

七十二番　富泉亭

右

林賢

七十三番　富泉亭

右

修理亮

七十四番　富泉亭

右

林賢

七十五番　富泉亭

右

修理亮

七十六番　富泉亭

右

林賢

七十七番　富泉亭

右

修理亮

七十八番　富泉亭

右

林賢

七十九番　富泉亭

右

修理亮

八十番　富泉亭

右

林賢

八十一番　富泉亭

右

修理亮

八十二番　富泉亭

右

林賢

八十三番　富泉亭

右

修理亮

八十四番　富泉亭

右

林賢

八十五番　富泉亭

右

修理亮

八十六番　富泉亭

右

林賢

八十七番　富泉亭

右

修理亮

八十八番　富泉亭

右

林賢

八十九番　富泉亭

右

修理亮

九十番　富泉亭

右

林賢

九十一番　富泉亭

右

修理亮

九十二番　富泉亭

右

林賢

九十三番　富泉亭

右

修理亮

九十四番　富泉亭

右

林賢

九十五番　富泉亭

右

修理亮

九十六番　富泉亭

右

林賢

九十七番　富泉亭

右

修理亮

九十八番　富泉亭

右

林賢

九十九番　富泉亭

右

修理亮

百番　富泉亭

右

林賢

百一番　富泉亭

右

修理亮

百二番　富泉亭

右

林賢

百三番　富泉亭

右

修理亮

百四番　富泉亭

右

林賢

百五番　富泉亭

右

修理亮

百六番　富泉亭

右

林賢

百七番　富泉亭

右

修理亮

百八番　富泉亭

右

林賢

百九番　富泉亭

右

修理亮

百十番　富泉亭

右

林賢

百十一番　富泉亭

右

修理亮

百十二番　富泉亭

右

林賢

百十三番　富泉亭

右

修理亮

百十四番　富泉亭

右

林賢

百十五番　富泉亭

右

修理亮

百十六番　富泉亭

右

林賢

百十七番　富泉亭

右

修理亮

百十八番　富泉亭

右

林賢

百十九番　富泉亭

右

修理亮

百二十番　富泉亭

右

林賢

百二十一番　富泉亭

右

修理亮

百二十二番　富泉亭

右

林賢

百二十三番　富泉亭

右

修理亮

百二十四番　富泉亭

右

林賢

百二十五番　富泉亭

右

修理亮

百二十六番　富泉亭

右

林賢

百二十七番　富泉亭

右

修理亮

百二十八番　富泉亭

右

林賢

百二十九番　富泉亭

右

修理亮

百三十番　富泉亭

右

林賢

百三十一番　富泉亭

右

修理亮

百三十二番　富泉亭

右

林賢

百三十三番　富泉亭

右

修理亮

百三十四番　富泉亭

右

林賢

百三十五番　富泉亭

右

修理亮

百三十六番　富泉亭

右

林賢

百三十七番　富泉亭

右

修理亮

百三十八番　富泉亭

右

林賢

百三十九番　富泉亭

右

修理亮

百四十番　富泉亭

右

林賢

百四十一番　富泉亭

右

修理亮

百四十二番　富泉亭

右

林賢

百四十三番　富泉亭

右

修理亮

百四十四番　富泉亭

右

林賢

百四十五番　富泉亭

右

修理亮

百四十六番　富泉亭

右

林賢

百四十七番　富泉亭

右

修理亮

百四十八番　富泉亭

右

林賢

百四十九番　富泉亭

右

修理亮

百五十番　富泉亭

右

林賢

百五十一番　富泉亭

右

修理亮

百五十二番　富泉亭

右

林賢

百五十三番　富泉亭

右

修理亮

百五十四番　富泉亭

右

林賢

百五十五番　富泉亭

右

修理亮

百五十六番　富泉亭

右

林賢

百五十七番　富泉亭

右

修理亮

百五十八番　富泉亭

右

林賢

百五十九番　富泉亭

右

修理亮

百六十番　富泉亭

右

林賢

百六十一番　富泉亭

右

修理亮

百六十二番　富泉亭

右

林賢

百六十三番　富泉亭

右

修理亮

百六十四番　富泉亭

右

林賢

百六十五番　富泉亭

右

修理亮

百六十六番　富泉亭

右

林賢

百六十七番　富泉亭

右

修理亮

百六十八番　富泉亭

右

林賢

百六十九番　富泉亭

右

修理亮

百七十番　富泉亭

右

林賢

百七十一番　富泉亭

右

修理亮

百七十二番　富泉亭

右

林賢

百七十三番　富泉亭

右

修理亮

百七十四番　富泉亭

右

林賢

百七十五番　富泉亭

右

修理亮

百七十六番　富泉亭

右

林賢

百七十七番　富泉亭

右

修理亮

百七十八番　富泉亭

右

林賢

百七十九番　富泉亭

右

修理亮

百八十番　富泉亭

右

林賢

百八十一番　富泉亭

右

修理亮

百八十二番　富泉亭

右

林賢

百八十三番　富泉亭

右

修理亮

百八十四番　富泉亭

右

林賢

百八十五番　富泉亭

右

修理亮

百八十六番　富泉亭

右

林賢

百八十七番　富泉亭

右

修理亮

百八十八番　富泉亭

右

林賢

百八十九番　富泉亭

右

修理亮

百九十番　富泉亭

右

林賢

百九十一番　富泉亭

右

修理亮

百九十二番　富泉亭

右

林賢

百九十三番　富泉亭

右

修理亮

百九十四番　富泉亭

右

林賢

百九十五番　富泉亭

右

修理亮

百九十六番　富泉亭

右

林賢

百九十七番　富泉亭

右

修理亮

百九十八番　富泉亭

右

林賢

百九十九番　富泉亭

右

修理亮

二百番　富泉亭

右

林賢

二百一番　富泉亭

右

修理亮

二百二番　富泉亭

右

林賢

二百三番　富泉亭

右

修理亮

二百四番　富泉亭

右

林賢

二百五番　富泉亭

右

修理亮

二百六番　富泉亭

右

林賢

二百七番　富泉亭

右

修理亮

二百八番　富泉亭

右

林賢

二百九番　富泉亭

右

修理亮

二百十番　富泉亭

右

林賢

二百十一番　富泉亭

右

修理亮

二百十二番　富泉亭

右

林賢

二百十三番　富泉亭

右

修理亮

二百十四番　富泉亭

右

林賢

二百十五番　富泉亭

右

修理亮

二百十六番　富泉亭

右

林賢

二百十七番　富泉亭

右

修理亮

二百十八番　富泉亭

右

林賢

二百十九番　富泉亭

右

修理亮

二百二十番　富泉亭

右

林賢

二百二十一番　富泉亭

右

修理亮

二百二十二番　富泉亭

右

林賢

二百二十三番　富泉亭

右

修理亮

二百二十四番　富泉亭

右

林賢

二百二十五番　富泉亭

右

修理亮

二百二十六番　富泉亭

右

林賢

二百二十七番　富泉亭

右

修理亮

二百二十八番　富泉亭

右

林賢

二百二十九番　富泉亭

右

修理亮

二百三十番　富泉亭

右

林賢

二百三十一番　富泉亭

右

修理亮

二百三十二番　富泉亭

右

林賢

二百三十三番　富泉亭

右

修理亮

二百三十四番　富泉亭

右

林賢

二百三十五番　富泉亭

右

修理亮

二百三十六番　富泉亭

右

林賢

二百三十七番　富泉亭

右

修理亮

二百三十八番　富泉亭

右

林賢

二百三十九番　富泉亭

右

修理亮

二百四十番　富泉亭

右

林賢

二百四十一番　富泉亭

右

修理亮

二百四十二番　富泉亭

右

林賢

二百四十三番　富泉亭

右

修理亮

二百四十四番　富泉亭

右

林賢

二百四十五番　富泉亭

右

修理亮

二百四十六番　富泉亭

右

林賢

二百四十七番　富泉亭

右

修理亮

二百四十八番　富泉亭

右

林賢

二百四十九番　富泉亭

右

修理亮

二百五十番　富泉亭

右

林賢

二百五十一番　富泉亭

右

修理亮

二百五十二番　富泉亭

右

林賢

二百五十三番　富泉亭

右

修理亮

二百五十四番　富泉亭

右

林賢

二百五十五番　富泉亭

右

修理亮

二百五十六番　富泉亭

右

林賢

二百五十七番　富泉亭

右

修理亮

二百五十八番　富泉亭

右

林賢

二百五十九番　富泉亭

右

修理亮

二百六十番　富泉亭

右

林賢

二百六十一番　富泉亭

右

修理亮

二百六十二番　富泉亭

右

林賢

二百六十三番　富泉亭

右

修理亮

二百六十四番　富泉亭

右

林賢

二百六十五番　富泉亭

右

修理亮

二百六十六番　富泉亭

右

林賢

二百六十七番　富泉亭

右

修理亮

二百六十八番　富泉亭

右

林賢

二百六十九番　富泉亭

右

修理亮

二百七十番　富泉亭

右

林賢

二百七十一番　富泉亭

右

修理亮

二百七十二番　富泉亭

右

林賢

二百七十三番　富泉亭

右

修理亮

二百七十四番　富泉亭

右

林賢

二百七十五番　富泉亭

右

修理亮

二百七十六番　富泉亭

右

林賢

二百七十七番　富泉亭

右

修理亮

二百七十八番　富泉亭

右

林賢

二百七十九番　富泉亭

右

修理亮

二百八十番　富泉亭

右

林賢

二百八十一番　富泉亭

右

修理亮

二百八十二番　富泉亭

右

林賢

二百八十三番　富泉亭

右

修理亮

二百八十四番　富泉亭

右

林賢

二百八十五番　富泉亭

右

修理亮

二百八十六番　富泉亭

右

林賢

二百八十七番　富泉亭

右

修理亮

二百八十八番　富泉亭

右

林賢

二百八十九番　富泉亭

右

修理亮

二百九十番　富泉亭

右

林賢

二百九十一番　富泉亭

右

修理亮

二百九十二番　富泉亭

右

林賢

二百九十三番　富泉亭

右

修理亮

二百九十四番　富泉亭

右

林賢

二百九十五番　富泉亭

右

修理亮

二百九十六番　富泉亭

右

林賢

二百九十七番　富泉亭

右

修理亮

二百九十八番　富泉亭

右

林賢

二百九十九番　富泉亭

右

修理亮

三百番　富泉亭

右

林賢

三百一番　富泉亭

右

修理亮

三百二番　富泉亭

右

林賢

三百三番　富泉亭

右

修理亮

三百四番　富泉亭

右

林賢

三百五番　富泉亭

右

修理亮

三百六番　富泉亭

右

林賢

三百七番　富泉亭

右

修理亮

三百八番　富泉亭

右

林賢

三百九番　富泉亭

右

修理亮

三百十番　富泉亭

右

林賢

三百十一番　富泉亭

右

修理亮

三百十二番　富泉亭

右

林賢

三百十三番　富泉亭

右

修理亮

三百十四番　富泉亭

右

林賢

三百十五番　富泉亭

右

修理亮

三百十六番　富泉亭

右

林賢

三百十七番　富泉亭

右

修理亮

三百十八番　富泉亭

右

林賢

三百十九番　富泉亭

右

修理亮

三百二十番　富泉亭

右

林賢

三百二十一番　富泉亭

右

修理亮

三百二十二番　富泉亭

右

林賢

三百二十三番　富泉亭

右

修理亮

三百二十四番　富泉亭

右

林賢

三百二十五番　富泉亭

右

修理亮

三百二十六番　富泉亭

右

林賢

三百二十七番　富泉亭

右

修理亮

三百二十八番　富泉亭

右

林賢

三百二十九番　富泉亭

右

修理亮

三百三十番　富泉亭

右

林賢

三百三十一番　富泉亭

右

修理亮

三百三十二番　富泉亭

右

林賢

三百三十三番　富泉亭

右

修理亮

三百三十四番　富泉亭

右

林賢

三百三十五番　富泉亭

右

修理亮

三百三十六番　富泉亭

右

林賢

三百三十七番　富泉亭

右

修理亮

三百三十八番　富泉亭

右

林賢

三百三十九番　富泉亭

右

修理亮

三百四十番　富泉亭

右

林賢

三百四十一番　富泉亭

右

修理亮

三百四十二番　富泉亭

右

林賢

三百四十三番　富泉亭

右

修理亮

三百四十四番　富泉亭

右

林賢

三百四十五番　富泉亭

右

修理亮

三百四十六番　富泉亭

右

林賢

三百四十七番　富泉亭

右

修理亮

三百四十八番　富泉亭

右

林賢

三百四十九番　富泉亭

右

修理亮

三百五十番　富泉亭

右

林賢

三百五十一番　富泉亭

右

修理亮

三百五十二番　富泉亭

右

林賢

三百五十三番　富泉亭

右

修理亮

三百五十四番　富泉亭

右

林賢

三百五十五番　富泉亭

右

修理亮

三百五十六番　富泉亭

右

林賢

三百五十七番　富泉亭

右

修理亮

三百五十八番　富泉亭

右

林賢

三百五十九番　富泉亭

右

修理亮

三百六十番　富泉亭

右

林賢

三百六十一番　富泉亭

右

修理亮

三百六十二番　富泉亭

右

林賢

三百六十三番　富泉亭

右

修理亮

三百六十四番　富泉亭

右

林賢

三百六十五番　富泉亭

右

修理亮

三百六十六番　富泉亭

右

林賢

三百六十七番　富泉亭

右

修理亮

三百六十八番　富泉亭

右

林賢

三百六十九番　富泉亭

右

修理亮

三百七十番　富泉亭

右

林賢

三百七十一番　富泉亭

右

修理亮

三百七十二番　富泉亭

右

林賢

三百七十三番　富泉亭

右

修理亮

三百七十四番　富泉亭

右

林賢

三百七十五番　富泉亭

右

修理亮

三百七十六番　富泉亭

右

林賢

三百七十七番　富泉亭

右

修理亮

三百七十八番　富泉亭

右

林賢

三百七十九番　富泉亭

右

修理亮

三百八十番　富泉亭

右

林賢

三百八十一番　富泉亭

右

修理亮

三百八十二番　富泉亭

右

林賢

三百八十三番　富泉亭

右

修理亮

三百八十四番　富泉亭

右

林賢

三百八十五番　富泉亭

右

修理亮

三百八十六番　富泉亭

右

林賢

三百八十七番　富泉亭

右

修理亮

三百八十八番　富泉亭

右

林賢

三百八十九番　富泉亭

右

修理亮

三百九十番　富泉亭

右

林賢

三百九十一番　富泉亭

右

修理亮

三百九十二番　富泉亭

右

林賢

三百九十三番　富泉亭

右

修理亮

三百九十四番　富泉亭

右

林賢

三百九十五番　富泉亭

右

修理亮

三百九十六番　富泉亭

右

林賢

三百九十七番　富泉亭

右

修理亮

三百九十八番　富泉亭

右

林賢

三百九十九番　富泉亭

右

修理亮

四百番　富泉亭

右

林賢

四百一番　富泉亭

右

修理亮

四百二番　富泉亭

右

林賢

四百三番　富泉亭

右

修理亮

四百四番　富泉亭

右

林賢

四百五番　富泉亭

右

修理亮

四百六番　富泉亭

右

林賢

四百七番　富泉亭

右

修理亮

四百八番　富泉亭

右

林賢

四百九番　富泉亭

右

修理亮

四百十番　富泉亭

右

林賢

四百十一番　富泉亭

右

修理亮

四百十二番　富泉亭

右

林賢

四百十三番　富泉亭

右

修理亮

四百十四番　富泉亭

右

林賢

四百十五番　富泉亭

右

修理亮

四百十六番　富泉亭

右

林賢

四百十七番　富泉亭

右

修理亮

四百十八番　富泉亭

右

林賢

四百十九番　富泉亭

右

修理亮

四百二十番　富泉亭

右

林賢

四百二十一番　富泉亭

右

修理亮

四百二十二番　富泉亭

右

林賢

四百二十三番　富泉亭

右

修理亮

四百二十四番　富泉亭

右

林賢

四百二十五番　富泉亭

右

修理亮

四百二十六番　富泉亭

右

林賢

四百二十七番　富泉亭

右

修理亮

四百二十八番　富泉亭

右

林賢

四百二十九番　富泉亭

右

修理亮

四百三十番　富泉亭

右

林賢

四百三十一番　富泉亭

右

修理亮

四百三十二番　富泉亭

右

林賢

四百三十三番　富泉亭

右

修理亮

四百三十四番　富泉亭

右

林賢

四百三十五番　富泉亭

右

修理亮

四百三十六番　富泉亭

右

林賢

四百三十七番　富泉亭

右

修理亮

四百三十八番　富泉亭

右

林賢

四百三十九番　富泉亭

右

修理亮

四百四十番　富泉亭

右

林賢

四百四十一番　富泉亭

右

修理亮

四百四十二番　富泉亭

右

林賢

四百四十三番　富泉亭

右

修理亮

四百四十四番　富泉亭

右

林賢

四百四十五番　富泉亭

右

修理亮

四百四十六番　富泉亭

右

林賢

四百四十七番　富泉亭

右

修理亮

四百四十八番　富泉亭

右

林賢

四百四十九番　富泉亭

右

修理亮

四百五十番　富泉亭

右

林賢

四百五十一番　富泉亭

右

修理亮

四百五十二番　富泉亭

右

林賢

四百五十三番　富泉亭

右

修理亮

四百五十四番　富泉亭

右

林賢

四百五十五番　富泉亭

右

修理亮

四百五十六番　富泉亭

右

林賢

四百五十七番　富泉亭

右

修理亮

四百五十八番　富泉亭

右

林賢

四百五十九番　富泉亭

右

修理亮

四百六十番　富泉亭

右

林賢

四百六十一番　富泉亭

右

修理亮

四百六十二番　富泉亭

右

林賢

四百六十三番　富泉亭

右

修理亮

四百六十四番　富泉亭

右

林賢

四百六十五番　富泉亭

右

修理亮

四百六十六番　富泉亭

右

林賢

四百六十七番　富泉亭

右

修理亮

四百六十八番　富泉亭

右

林賢

四百六十九番　富泉亭

右

修理亮

四百七十番　富泉亭

右

林賢

四百七十一番　富泉亭

右

修理亮

四百七十二番　富泉亭

右

林賢

四百七十三番　富泉亭

右

修理亮

四百七十四番　富泉亭

右

林賢

四百七十五番　富泉亭

右

修理亮

四百七十六番　富泉亭

右

林賢

四百七十七番　富泉亭

右

修理亮

四百七十八番　富泉亭

右

林賢

四百七十九番　富泉亭

右

修理亮

四百八十番　富泉亭

右

林賢

四百八十一番　富泉亭

右

修理亮

四百八十二番　富泉亭

右

林賢

四百八十三番　富泉亭

右

修理亮

四百八十四番　富泉亭

右

林賢

四百八十五番　富泉亭

右

修理亮

四百八十六番　富泉亭

右

林賢

四百八十七番　富泉亭

右

修理亮

四百八十八番　富泉亭

右

林賢

四百八十九番　富泉亭

右

修理亮

四百九十番　富泉亭

右

林賢

四百九十一番　富泉亭

右

修理亮

四百九十二番　富泉亭

右

林賢

四百九十三番　富泉亭

右

修理亮

四百九十四番　富泉亭

右

林賢

四百九十五番　富泉亭

右

修理亮

四百九十六番　富泉亭

右

林賢

四百九十七番　富泉亭

右

修理亮

四百九十八番　富泉亭

右

林賢

四百九十九番　富泉亭

右

修理亮

五百番　富泉亭

右

林賢

五百一番　富泉亭

右

修理亮

五百二番　富泉亭

右

林賢

五百三番　富泉亭

右

修理亮

五百四番　富泉亭

右

林賢

五百五番　富泉亭

右

修理亮

五百六番　富泉亭

右

林賢

五百七番　富泉亭

右

修理亮

五百八番　富泉亭

右

林賢

五百九番　富泉亭

右

修理亮

五百十番　富泉亭

右

林賢

五百十一番　富泉亭

右

修理亮

五百十二番　富泉亭

右

林賢

五百十三番　富泉亭

右

修理亮

五百十四番　富泉亭

右

林賢

五百十五番　富泉亭

右

修理亮

五百十六番　富泉亭

右

林賢

五百十七番　富泉亭

右

修理亮

五百十八番　富泉亭

右

林賢

五百十九番　富泉亭

右

修理亮

五百二十番　富泉亭

右

林賢

五百二十一番　富泉亭

右

修理亮

五百二十二番　富泉亭

右

林賢

五百二十三番　富泉亭

右

修理亮

五百二十四番　富泉亭

右

林賢

五百二十五番　富泉亭

右

修理亮

五百二十六番　富泉亭

右

林賢

五百二十七番　富泉亭

右

修理亮

五百二十八番　富泉亭

右

林賢

五百二十九番　富泉亭

右

修理亮

五百三十番　富泉亭

右

林賢

五百三十一番　富泉亭

右

修理亮

五百三十二番　富泉亭

右

林賢

五百三十三番　富泉亭

右

修理亮

五百三十四番　富泉亭

右

林賢

五百三十五番　富泉亭

右

修理亮

五百三十六番　富泉亭

右

林賢

五百三十七番　富泉亭

右

修理亮

五百三十八番　富泉亭

右

林賢

五百三十九番　富泉亭

右

修理亮

五百四十番　富泉亭

右

林賢

五百四十一番　富泉亭

右

修理亮

五百四十二番　富泉亭

右

林賢

五百四十三番　富泉亭

右

修理亮

五百四十四番　富泉亭

右

林賢

五百四十五番　富泉亭

右

修理亮

五百四十六番　富泉亭

右

林賢

五百四十七番　富泉亭

右

修理亮

五百四十八番　富泉亭

右

林賢

五百四十九番　富泉亭

右

修理亮

五百五十番　富泉亭

右

林賢

五百五十一番　富泉亭

右

修理亮

五百五十二番　富泉亭

右

林賢

五百五十三番　富泉亭

右

修理亮

五百五十四番　富泉亭

右

林賢

五百五十五番　富泉亭

右

修理亮

五百五十六番　富泉亭

右

林賢

五百五十七番　富泉亭

右

修理亮

五百五十八番　富泉亭

右

林賢

五百五十九番　富泉亭

右

修理亮

五百六十番　富泉亭

右

林賢

五百六十一番　富泉亭

右

修理亮

五百六十二番　富泉亭

右

林賢

五百六十三番　富泉亭

右

修理亮

五百六十四番　富泉亭

右

林賢

五百六十五番　富泉亭

右

修理亮

五百六十六番　富泉亭

右

林賢

五百六十七番　富泉亭

右

修理亮

五百六十八番　富泉亭

右

林賢

五百六十九番　富泉亭

右

修理亮

五百七十番　富泉亭

右

林賢

五百七十一番　富泉亭

右

修理亮

五百七十二番　富泉亭

右

林賢

五百七十三番　富泉亭

右

修理亮

五百七十四番　富泉亭

右

林賢

五百七十五番　富泉亭

右

修理亮

五百七十六番　富泉亭

右

林賢

五百七十七番　富泉亭

右

修理亮

五百七十八番　富泉亭

右

林賢

五百七十九番　富泉亭

右

修理亮

五百八十番　富泉亭

右

林賢

五百八十一番　富泉亭

右

修理亮

五百八十二番　富泉亭

右

林賢

五百八十三番　富泉亭

右

修理亮

五百八十四番　富泉亭

右

林賢

五百八十五番　富泉亭

右

修理亮

五百八十六番　富泉亭

右

林賢

五百八十七番　富泉亭

右

修理亮

五百八十八番　富泉亭

右

林賢

五百八十九番　富泉亭

右

修理亮

五百九十番　富泉亭

右

林賢

五百九十一番　富泉亭

右

修理亮

五百九十二番　富泉亭

右

林賢

五百九十三番　富泉亭

右

修理亮

五百九十四番　富泉亭

右

林賢

五百九十五番　富泉亭

右

修理亮

五百九十六番　富泉亭

右

林賢

五百九十七番　富泉亭

右

修理亮

五百九十八番　富泉亭

右

林賢

五百九十九番　富泉亭

右

修理亮

六百番　富泉亭

右

林賢

六百一番　富泉亭

右

修理亮

六百二番　富泉亭

右

林賢

六百三番　富泉亭

右

修理亮

六百四番　富泉亭

右

林賢

六百五番　富泉亭

右

修理亮

六百六番　富泉亭

右

林賢

六百七番　富泉亭

右

修理亮

六百八番　富泉亭

右

林賢

六百九番　富泉亭

右

修理亮

六百十番　富泉亭

右

林賢

六百十一番　富泉亭

右

修理亮

六百十二番　富泉亭

右

林賢

六百十三番　富泉亭

右

修理亮

六百十四番　富泉亭

右

林賢

六百十五番　富泉亭

右

修理亮

六百十六番　富泉亭

右

林賢

六百十七番　富泉亭

右

修理亮

六百十八番　富泉亭

右

林賢

六百十九番　富泉亭

右

修理亮

六百二十番　富泉亭

右

林賢

六百二十一番　富泉亭

右

修理亮

六百二十二番　富泉亭

右

林賢

六百二十三番　富泉亭

右

修理亮

六百二十四番　富泉亭

右

林賢

六百二十五番　富泉亭

右

修理亮

六百二十六番　富泉亭

右

林賢

六百二十七番　富泉亭

右

修理亮

六百二十八番　富泉亭

右

林賢

六百二十九番　富泉亭

右

修理亮

六百三十番　富泉亭

右

林賢

六百三十一番　富泉亭

右

修理亮

六百三十二番　富泉亭

右

林賢

六百三十三番　富泉亭

右

修理亮

六百三十四番　富泉亭

右

林賢

六百三十五番　富泉亭

右

修理亮

六百三十六番　富泉亭

右

林賢

六百三十七番　富泉亭

右

修理亮

六百三十八番　富泉亭

右

林賢

六百三十九番　富泉亭

右

修理亮

六百四十番　富泉亭

右

林賢

六百四十一番　富泉亭

右

修理亮

六百四十二番　富泉亭

右

林賢

六百四十三番　富泉亭

右

修理亮

六百四十四番　富泉亭

右

林賢

六百四十五番　富泉亭

右

修理亮

六百四十六番　富泉亭

右

林賢

六百四十七番　富泉亭

右

修理亮

六百四十八番　富泉亭

右

林賢

六百四十九番　富泉亭

右

修理亮

六百五十番　富泉亭

右

林賢

六百五十一番　富泉亭

右

修理亮

六百五十二番　富泉亭

右

林賢

六百五十三番　富泉亭

右

修理亮

六百五十四番　富泉亭

右

林賢

六百五十五番　富泉亭

右

修理亮

六百五十六番　富泉亭

右

林賢

六百五十七番　富泉亭

右

修理亮

六百五十八番　富泉亭

右

林賢

六百五十九番　富泉亭

右

修理亮

六百六十番　富泉亭

右

林賢

六百六十一番　富泉亭

右

修理亮

六百六十二番　富泉亭

右

林賢

六百六十三番　富泉亭

右

修理亮

六百六十四番　富泉亭

右

林賢

六百六十五番　富泉亭

右

修理亮

六百六十六番　富泉亭

右

林賢

六百六十七番　富泉亭

右

修理亮

六百六十八番　富泉亭

右

林賢

六百六十九番　富泉亭

右

修理亮

六百七十番　富泉亭

右

林賢

六百七十一番　富泉亭

右

修理亮

六百七十二番　富泉亭

右

林賢

六百七十三番　富泉亭

右

修理亮

六百七十四番　富泉亭

右

林賢

六百七十五番　富泉亭

右

修理亮

六百七十六番　富泉亭

右

林賢

六百七十七番　富泉亭

右

修理亮

六百七十八番　富泉亭

右

林賢

六百七十九番　富泉亭

右

修理亮

六百八十番　富泉亭

右

林賢

六百八十一番　富泉亭

右

修理亮

六百八十二番　富泉亭

右

林賢

六百八十三番　富泉亭

右

修理亮

六百八十四番　富泉亭

右

林賢

六百八十五番　富泉亭

右

修理亮

六百八十六番　富泉亭

右

林賢

六百八十七番　富泉亭

右

修理亮

六百八十八番　富泉亭

右

林賢

六百八十九番　富泉亭

右

修理亮

六百九十番　富泉亭

右

林賢

六百九十一番　富泉亭

右

修理亮

六百九十二番　富泉亭

右

林賢

六百九十三番　富泉亭

右

修理亮

六百九十四番　富泉亭

右

林賢

六百九十五番　富泉亭

右

修理亮

六百九十六番　富泉亭

右

林賢

六百九十七番　富泉亭

右

修理亮

六百九十八番　富泉亭

右

林賢

六百九十九番　富泉亭

右

修理亮

七百番　富泉亭

右

林賢

七百一番　富泉亭

右

修理亮

七百二番　富泉亭

右

林賢

七百三番　富泉亭

右

修理亮

七百四番　富泉亭

右

林賢

七百五番　富泉亭

右

修理亮

七百六番　富泉亭

右

林賢

七百七番　富泉亭

右

修理亮

七百八番　富泉亭

右

林賢

七百九番　富泉亭

右

修理亮

七百十番　富泉亭

右

林賢

七百十一番　富泉亭

右

修理亮

七百十二番　富泉亭

右

林賢

七百十三番　富泉亭

右

修理亮

七百十四番　富泉亭

右

林賢

七百十五番　富泉亭

右

修理亮

七百十六番　富泉亭

右

林賢

七百十七番　富泉亭

右

修理亮

七百十八番　富泉亭

右

林賢

七百十九番　富泉亭

右

修理亮

七百二十番　富泉亭

右

林賢

七百二十一番　富泉亭

右

修理亮

七百二十二番　富泉亭

右

林賢

七百二十三番　富泉亭

右

修理亮

七百二十四番　富泉亭

右

林賢

七百二十五番　富泉亭

右

修理亮

七百二十六番　富泉亭

右

林賢

七百二十七番　富泉亭

右

修理亮

七百二十八番　富泉亭

右

林賢

七百二十九番　富泉亭

右

修理亮

七百三十番　富泉亭

右

林賢

七百三十一番　富泉亭

右

修理亮

七百三十二番　富泉亭

右

林賢

七百三十三番　富泉亭

右

修理亮

七百三十四番　富泉亭

右

林賢

七百三十五番　富泉亭

右

修理亮

七百三十六番　富泉亭

右

林賢

七百三十七番　富泉亭

右

修理亮

七百三十八番　富泉亭

右

林賢

七百三十九番　富泉亭

右

修理亮

七百四十番　富泉亭

右

林賢

七百四十一番　富泉亭

右

修理亮

七百四十二番　富泉亭

右

林賢

七百四十三番　富泉亭

右

修理亮

七百四十四番　富泉亭

右

林賢

七百四十五番　富泉亭

右

修理亮

七百四十六番　富泉亭

右

林賢

七百四十七番　富泉亭

右

修理亮

七百四十八番　富泉亭

右

林賢

七百四十九番　富泉亭

右

修理亮

七百五十番　富泉亭

右

林賢

七百五十一番　富泉亭

右

修理亮

七百五十二番　富泉亭

右

林賢

七百五十三番　富泉亭

右

修理亮

七百五十四番　富泉亭

右

林賢

七百五十五番　富泉亭

右

修理亮

七百五十六番　富泉亭

右

林賢

七百五十七番　富泉亭

右

修理亮

七百五十八番　富泉亭

右

林賢

七百五十九番　富泉亭

右

修理亮

七百六十番　富泉亭

右

林賢

七百六十一番　富泉亭

右

修理亮

七百六十二番　富泉亭

右

林賢

七百六十三番　富泉亭

右

修理亮

七百六十四番　富泉亭

右

林賢

七百六十五番　富泉亭

右

修理亮

七百六十六番　富泉亭

右

林賢

七百六十七番　富泉亭

右

修理亮

七百六十八番　富泉亭

右

林賢

七百六十九番　富泉亭

右

修理亮

七百七十番　富泉亭

右

林賢

七百七十一番　富泉亭

右

修理亮

七百七十二番　富泉亭

右

林賢

七百七十三番　富泉亭

右

修理亮

七百七十四番　富泉亭

右

林賢

七百七十五番　富泉亭

右

修理亮

七百七十六番　富泉亭

右

林賢

七百七十七番　富泉亭

右

修理亮

七百七十八番　富泉亭

右

林賢

七百七十九番　富泉亭

右

修理亮

七百八十番　富泉亭

右

林賢

七百八十一番　富泉亭

右

修理亮

七百八十二番　富泉亭

右

林賢

七百八十三番　富泉亭

右

修理亮

七百八十四番　富泉亭

右

林賢

七百八十五番　富泉亭

右

修理亮

七百八十六番　富泉亭

右

林賢

七百八十七番　富泉亭

右

修理亮

七百八十八番　富泉亭

右

林賢

七百八十九番　富泉亭

右

修理亮

七百九十番　富泉亭

右

林賢

七百九十一番　富泉亭

右

修理亮

七百九十二番　富泉亭

右

林賢

七百九十三番　富泉亭

右

修理亮

七百九十四番　富泉亭

右

林賢

七百九十五番　富泉亭

右

修理亮

七百九十六番　富泉亭

右

林賢

七百九十七番　富泉亭

右

修理亮

七百九十八番　富泉亭

右

林賢

七百九十九番　富泉亭

右

修理亮

八百番　富泉亭

右

林賢

八百一番　富泉亭

右

修理亮

八百二番　富泉亭

右

林賢

八百三番　富泉亭

右

修理亮

八百四番　富泉亭

右

林賢

八百五番　富泉亭

右

修理亮

八百六番　富泉亭

右

林賢

八百七番　富泉亭

右

修理亮

八百八番　富泉亭

右

林賢

八百九番　富泉亭

右

修理亮

八百十番　富泉亭

右

林賢

八百十一番　富泉亭

右

修理亮

八百十二番　富泉亭

右

林賢

八百十三番　富泉亭

右

修理亮

八百十四番　富泉亭

右

林賢

八百十五番　富泉亭

右

修理亮

八百十六番　富泉亭

右

林賢

八百十七番　富泉亭

右

修理亮

八百十八番　富泉亭

右

林賢

八百十九番　富泉亭

右

修理亮

八百二十番　富泉亭

右

林賢

八百二十一番　富泉亭

右

修理亮

八百二十二番　富泉亭

右

林賢

八百二十三番　富泉亭

右

修理亮

八百二十四番　富泉亭

右

林賢

八百二十五番　富泉亭

右

修理亮

八百二十六番　富泉亭

右

林賢

八百二十七番　富泉亭

右

修理亮

八百二十八番　富泉亭

右

林賢

八百二十九番　富泉亭

右

修理亮

八百三十番　富泉亭

右

林賢

八百三十一番　富泉亭

右

修理亮

八百三十二番　富泉亭

右

林賢

八百三十三番　富泉亭

右

修理亮

八百三十四番　富泉亭

右

林賢

八百三十五番　富泉亭

右

修理亮

八百三十六番　富泉亭

右

林賢

八百三十七番　富泉亭

右

修理亮

八百三十八番　富泉亭

右

林賢

八百三十九番　富泉亭

右

修理亮

八百四十番　富泉亭

右

林賢

八百四十一番　富泉亭

右

修理亮

八百四十二番　富泉亭

右

林賢

八百四十三番　富泉亭

右

修理亮

八百四十四番　富泉亭

右

林賢

八百四十五番　富泉亭

右

修理亮

八百四十六番　富泉亭

右

林賢

八百四十七番　富泉亭

右

修理亮

八百四十八番　富泉亭

右

林賢

八百四十九番　富泉亭

右

修理亮

八百五十番　富泉亭

右

林賢

八百五十一番　富泉亭

右

修理亮

八百五十二番　富泉亭

右

林賢

八百五十三番　富泉亭

右

修理亮

八百五十四番　富泉亭

右

林賢

八百五十五番　富泉亭

右

修理亮

八百五十六番　富泉亭

右

林賢

八百五十七番　富泉亭

右

修理亮

八百五十八番　富泉亭

右

林賢

八百五十九番　富泉亭

右

修理亮

八百六十番　富泉亭

右

林賢

八百六十一番　富泉亭

右

修理亮

八百六十二番　富泉亭

右

林賢

八百六十三番　富泉亭

右

修理亮

八百六十四番　富泉

類從本百八十三枚

今殿下
内大臣家哥合 元永二年七月日 判者修理大夫

一番 菊花

左 勝

さまざまの花のそのなかには白菊の

右

とこしなへふるとも霜のをきまがふ白菊のえだ

左 秋のいろをもいかでかわくべき

季通朝臣

白菊の秋のいろをもわかざりけり

（仲房）
基俊

此判、六番の裏全後のごとし判もスロしりめと類從本に大異也校合すべし

九番の右

あさぢふの萩の露やそこならん雲のうへまでにほふ秋風

雲のうへまでにほふ秋風

左 吹日

夕ぐれにひとりをきゐる露よりもあはれ

右 脇

萩や花をみ山のあさぢふ夕つゆしげき

左 ゆふづくよさしでにみえてゆく月を

すみわたるこそものごとにかなしけれ

宗國

よもすがら

忠季

晩月四番の判

晩月九番の判

夕ぐれや天津雲井をながむらん山のそなたの

右 脇

尹時

左 月

行盛

十六

千載秋上 権大納言定家
秋のよの心をつくしてぬれて
行のくまなき月をよめる

晩月十番の歌合

月のまへの恋

左

なきものを思ひ入野の草まくら

右

なきものを思ひ入野の草まくら

月のまへの恋

左

月のまへの恋

右

女房

左

月のまへの恋

右

基俊

左

月のまへの恋

右

忠隆

左

月のまへの恋

右

基俊

左

月のまへの恋

右

類従本十二この二首の詞欠

左

月のまへの恋

右

勝尋

左

月のまへの恋

右

基俊

左

月のまへの恋

右

忠隆

左

月のまへの恋

右

基俊

全画 あらつのくさもよって くさ〳〵ぼく〳〵なれこ こうそこそこそれの凡

右 脇

道徹

右

志隆

右

志

右

十五番 月

右

藤國親 西住ノ通ノ

金葉ヲ後二条ニヲロホ所ヲ多

右

アノ今イ ん 金

道徹

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』　請求記号 ゑ-3

ガラス使用

右京亮綱重朝臣

千載三 修十四 言修忠

ふるさとの花をたづぬる春風に

あとまでにほふ軒の梅が香

右京亮綱忠

千載三 修十四 言修忠

ふるさとの花のしるべもわすれずは

たれか軒端の梅も匂はん

前権帥卿

判の詞類從本ト大キニタガヘリ

時雨題
土番ノ詩ニ

ノ訛一番ノ詩ニ

是ヨリ下判ノ詞イクタガヘリ

ノ訛七番ニ

判詞又大異ナリ

以下類從本欠

判詞又大異ル

三ノ類九番ル

此事いまゝでたれもいはざりけるを
右勝
通俊 朝臣 同ジ

此事のいふかひなきにやとおもひいはざりけるを
忠隆 朝臣 同ジ

金葉三奏下
右猶
つゝまれぬ

つゝまれぬ事ゆゑ山のかひなきにやとおもひいはざりけるを
修理大夫俊頼朝臣

あまりに深山のもれ出でて人もとがめぬ
右勝

もりくる事こそなけれ
ちぎりおきしさらしなよりも
ちぎりおきしさらしなよりも

關白殿二合 修理大夫俊頼朝臣
右負

ありまの山のいなばかぜ
女房

事ゝふきしをれば
事ゝふきしをれば

判詞又大異ル

新古秋上大納言経信
見えみとんやうの
のつゆまでしのばるゝ
つゆ

右

ふる里は月をもてこそ思ひやれ
修理大夫俊頼朝臣

山のあなたの空もなつかし
いつく基俊右衛門尉

右月

こゝもまた月をもてこそ人のとふ
判詞同上

修理大夫俊頼朝臣

山の月をばいかゞながめし
いつく基俊右衛門尉

右 野風

宗國

秋の風の夜ふけてふくは
野風 六番ル

判詞同上

庭雪ノ題
二番

判詞同上

判詞同上

右

判詞同上

人をあやまつことはしてもあるべし
右勝
世にあるものもわれをあやまつことはしてもあるべし
相圓
修行にあるものいそぎてあやまつことあり
春雪をいそぎて古郷へかへるといひて
川をもわたりてあやまつことあり
つつしむべきことにて右勝
類從本百八十四永條
奉良房放令妓
本書長林院令会 判者俊頼トアリ
右雪
雪ノ題一番
雪あれば春のものとやおもふらん
判詞類從本大違ヒ
右一首中よ二の歌をあやまつことあり
よりて負ぬ万葉ふかき水底をとりてよめる
中納言敦綱卿
雪ノ題四番
水の面のうへにつもれる雪ゆゑ
判詞同上
あやまつことありてつぎてよめる
雪
右勝
僧信永 香象房
雪ノ題五番
うちもうちもあまもうちもうちもうち

右同

雪題七番 判詞同上

武部君

祝題一番 判同上

教縁（中納言局）

祝題四番 判同上

信永（春宮権大夫）

金紫賀皇后宮 紀後

類従本百八十四 西宮歌合校

親題六番 判同上

勝延（春宮亮平）

判詞類従本ヨリ省略ス

新続古秋下

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』　請求記号 ゑ-3

ガラス使用

題輔相臣有合 長永年の

右 頁月

題昭考詞ハ雅上左辛夫ノ補
万葉富士不煙煙
判詞類從本ヨリ省略セリ
有二雅一云々

哥多如何
イ本動物
維摩經云
如空中
雲須臾
散滅云
崇德院
御製定
ありきよ
この世を
こそ
ありし
ありと
まろ

寂然ハ
ありの
ありと
ありし
ありと
ありし
ありと
ありし

及判

「類從本无」
不棄之不用

擬（於）
擬之事如不風之雨之

（後拾）
誉之之道之之之之之

之字之之之之之之之之

家成殆（後）亭会 長業（寛）年判者基俊顕仲也

右 月

之之山之之之之之之之之之之之之

右

天之之之之之之之之之之之之之之

題昭為云
万葉集
之之之之
之之之之
之之之之
之之之之
之之之之

基俊之之之之之之之之之之之之

右之之之之之之之之之之之之之

之之之之之之之之之之之之之之

之之之之之之之之之之之之之之

判之之之之之之之之之之之之

同家亭会 保延（元）年判者重通卿也

右 祝

君之之之之之之之之之之之之

之之之之之之之之之之之之之之

文者作者不可依又有證令歟

右 祝

中将内侍

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』　請求記号 ゑ-3
ガラス使用

右

仕山生之事の身をつくすことをも君ゆへなれ
たゝこの忠をよろこぶ
きこゆる右自古祝をよもの長生を久視のこゝろを
ちんよむ倫を栄官栄禄のんをようて巳忘仙業
巡齢んあやまつ侍る左
或所会保延四年 判者基俊
左京

新宰相中将之経

ある秋の常なきものとわきこのみつゝ
上旬の秋のつゝくかの
やんうんとて負

右衛門督

殿下参河

ほのぼのと有明の月の光の秋の
左右前のをまつ侍て人を
人をとよまれいふよもんへ
唯おもひ入

ことをも年ふるまゝ
方人仗訟中殊非咎之由被定之

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』　請求記号 ゑ-3
ガラス使用

一　故人和歌難

難後拾遺校

雑後拾遺云　経信卿有名ノ
（春上大中に雑上）
歌ノ上手ニテ殊ニ四季ノ歌ノ
足ハ上手ノ手ト被申ケルニヤ
水鶏ノ同事ノ上ニ
みそかなる
とかやよみ
かくふるし
此分何ノ
（鶏）
鳥ノ多群集ル形
（ヒトト）
ヲ
ほと
（学ニ）
ノ事ヲ
（詩）
歌ノ所ニ
鳥ノ名ヲ
書ル事ハ

同多武峯（信明）
ノ
歌ニ
春ノ
夜ノ
ヤウニ
ヨマレ
ケル
ヤウニ
ヨマレ
ケル
ヤウニ
ヨマレ
ケル

（集）
（集）
（集）

後拾遺不見

雑上詞書之

淀院御所

雑上天中仮名序

雑二大大内朝之

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』　請求記号 ゑ-3

ガラス使用

集不見

神中物四

続古三四

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』　請求記号 ゑ-3

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』　請求記号 ゑ-3

ガラス使用

小家漬湖水て傳垣未許見ゟ寛祐歌云
水ゟもおもひのみそ深草の
観教云此歌有大雅体不然ゟ由を同
論還向ゟ時共文の心忠弁ゟ詩参て申此由弁暫
泥思云々ゟ不得心ゟ向ゟ事
凡和哥ゟ不思懸事若不得心ゟ事
純可斟酌也然者勘解由安次官清行和哥式云
和歌者先花後實不孫古語并昇陽所名真物墨名
呉葉ゟ中求美玉ゟ中擇玉長物瓦礫ゟ辞先風月
ゟ思ゟ入詞林拳花步其榮氣着捨号不採暗渭時

頭書云
此式未
尋ゟ以
不重

汲泉無其嘉名思而不飲是詞人遺風也莫忽緒ゟ
隨賀陽院七番哥合、
判者不思懸ゟ由を被論称ゟ時人咽哽ゟ云々
延喜十三年亭子院ゟ御ゟ
ゟ事ゟ御ゟ
ゟ事ゟ吾碁後顕仲遣ゟ
ゟ如此ゟ傳ゟ被
ゟ傳ゟ病患ゟ届結ゟ
病時詠ゟ被歌前泉州遣
ゟ傳ゟ被

類從本百八十校

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』 請求記号 ゑ-3
ガラス使用

此夏不審
後患ヲ今
ヨリ
祈ト云事ハ
ヨマヌ
題跋云後
患ヲ思遠
絵巻

僧いかなるをそうそうの作也
如此文よりくて名家也故有
ともて云事ハ不可然先年白河院ま
有和尚師何とかや絵を
下ようそうの沙汰のものの如此事
古ヨまてもすいて絵事也
窓燈相似験動二字ハ聲仍禁
月賦相似天罰二字ハ聲仍忌
詩感礼と云事昔常作之近代忌
之不作云風起于青蘋之末文選風賦相似清貧
二字之聲仍忌之虎嘯風起者経風おこるとハ不讀
風ハ聲ヨ可讀云云

山面ハ文
不作ト

秋の野ハ
ヨまぬ
物ヨ
秋のハ萩ハちるも庵ハ
神ヨまぬ
ヨ

題跋ハ云ハ
有絵巻題ハ
但大和物語ハ
手作ハ日記ハ作
ト云ヨハ
ちるハ由
夫木歟
絵ヨ作ハ
跋ハ不作
ハ
ヨ

式部左輔正家俗云道雅三位の八条ヨ人ヨ庵ヶ
後ヨ國房ヶ云原平ヶ
閑ヨ絶衝云ヶ
通ヨて五ヨ
ヨ云ハ一ヶ解願ヶ
近家ヶ今ヨ或人
ヨ
ヨ
ヨ

或人云何以弄
貫之歌之
但定依歌
於但経撰
云云
乃至云云
つゝのまゝ
なゝり

漢家筆ゝ此事不待保亂庚申序云古人身ゝ
ゝ人身ゝ有国ゝ云古ゝ人ゝ今ゝ人ゝ
守成ゝ朝儀ゝ
忠峯依宣旨献平云
白ゝのゝゝ
貞観云府生大袮依帝王養事ゝ云事ゝ
保哉帝位ゝ遜位ゝ
中ゝ事ゝ
平安ゝ帝王行前ゝ
拾遺物云康保三年二月二十日梅花ゝ御侍ゝ
ゝ有御宴時保房信経
ゝゝゝゝゝゝゝ

此ゝ可有禁忌歟此行経
此物語多ゝ
第四歟

御堂門院根合ゝ周防内侍
ゝゝゝゝゝ
有禁ゝ
女院前行ゝ
多ゝ
此ゝ
此行ゝ遺産堂ゝ
此行ゝ十番有ゝ
同根合時右一番ゝ

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』 請求記号 ゑ-3
ガラス使用

宗固云

此一帖ハ清輔朝臣の袋双紙の遺篇ニて袋覧以前
の本ありへ〳〵世上流布の袋双帋四帖の内歌合事部立
ニ〳〵唯雑談の部ニ五ヶ条許入ニるを此遺篇ニハ此支
有上巻ニ書入あり此書頭書多ハ顕昭の書入ニてあるへく
〳〵彼の条下ニ顕昭云俊忠を思違給ニてある云々顕輔卿の事ニ又
兄清輔朝臣事ニ可考二条為定郷書入とあり
世上流布本奥ニ尋申云葉草子名令釈云而此本々ニ候
如何仰云然也件ノ釈ハ頗戯言歟仍袋覧本ニハ依有
其憚不書之歟我ニ書テ給タリシ本ニハ件ノ本ハシニ書ニ
き其本六角東洞院ニ上之時焼之此名者智袋也
又才学袋也入袋常随身仍有此名又令書進ニ皆

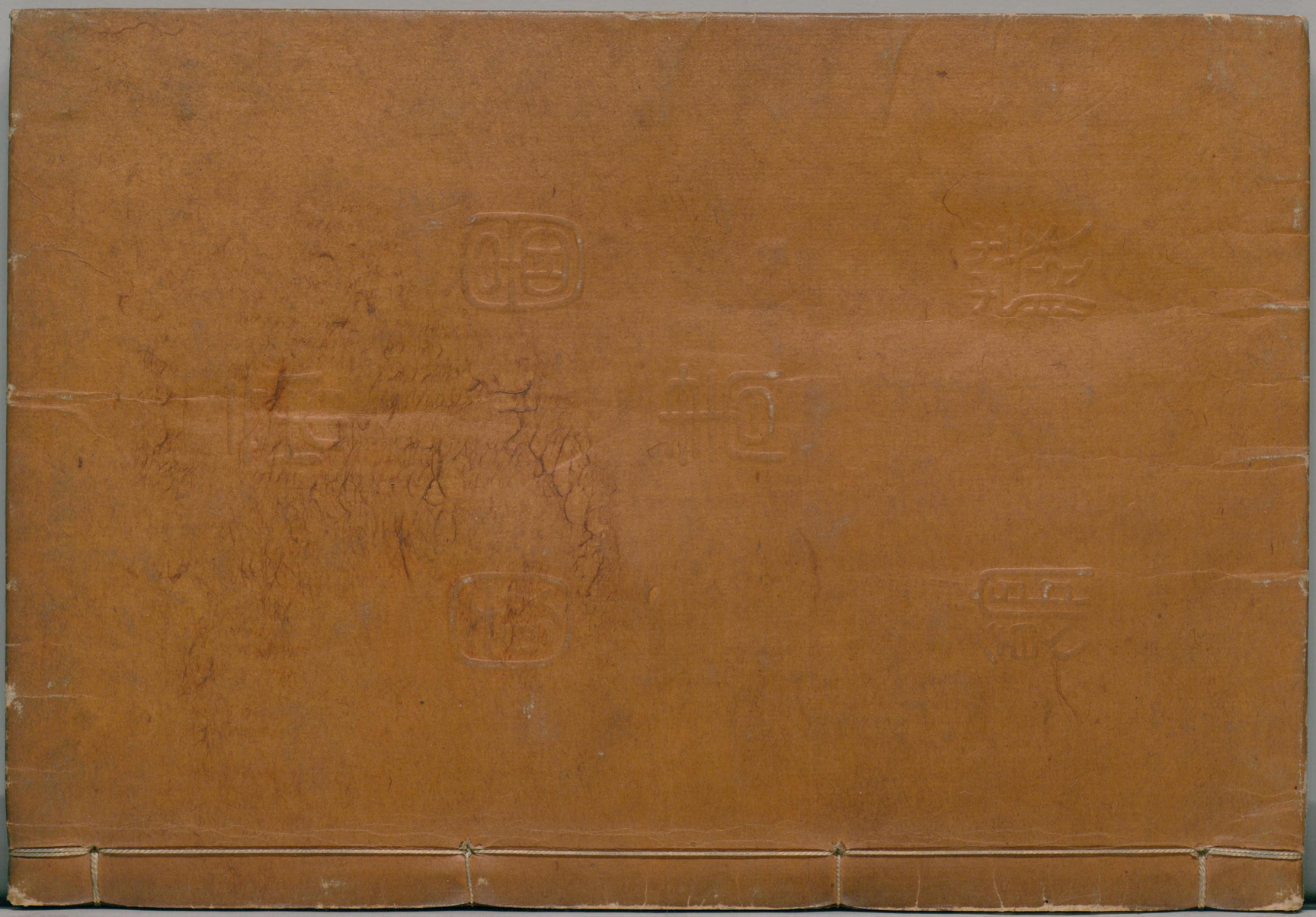
国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』　請求記号 ゑ-3
ガラス使用

ふ
2
3

虚言袋ト釈メリシ下畧宗固云今此
遺篇ノ端ニ嚢字四義籠一者其形嚢也一者知嚢
也一者動キ納嚢随身也一者多僻妄故虚言袋之
義トアルニ合考テ此書袋双帋ノ遺篇ニ有事ヲモ
ヘ〳〵二条院ヘ奏覧本ニハ此釈ヲ除ケリ今ノ流布
本奥書建久二年トアリテソノ筆者未詳トモ後ノ書
ル物ゆゑ文ニ大同小異アレトモ此書ノ袋双帋ニ
事ハ分明ニ有リ惜哉此書モ又未脱簡トラシ今ノ流布
本ヒ疑ニ畧本欤中院家遍ク御本ヲ流布ノ本ヲモ
斬々文字ヲ直サレシヤウニ窓外ニ出ヘクシ
窓外ニ出ヘクシ也此一帖ヲ珍書ニ

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』　請求記号 ゑ-3
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』請求記号 ゑ-3
ガラス使用



ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『袋草子遺編』　請求記号 ろ-3